

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	1	2009/1/5	日めくり万葉集	額田王 (巻1・20) 口語訳	1	あかねさす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る (あかねさす)紫草の野を行き 標を結う野を行き 野の番人は見ているではありませんか あなたが袖をお振りになるのを	可	0:05	(ch3)
6	1	2	2009/1/6	日めくり万葉集	大伴家持 (巻20・4516) 口語訳	2	新しき 年の初めの 初春の 今日降る雪の いやしけ吉事 新しい年の初めの正月元旦 立春も重なった 今日降るめでたい雪のように ますます重なれ 良いことよ	可	0:05	(ch3)
6	1	3	2009/1/7	日めくり万葉集	市原王 (巻6・1042) 口語訳	3	一つ松 幾代か経ぬる 吹く風の 声の清きは 年深みかも ひとつ松は どれほどの時代を経たのだろうか 松の梢を吹く風の音が 清らで澄み切っているのを聞くと 深く歳月をすごしてきたのだろうか	可	0:05	(ch3)
6	1	4	2009/1/8	日めくり万葉集	山部赤人 (巻3・318) 口語訳	4	田子の浦ゆ うち出でて見れば ま白にそ 富士の高嶺に雪は降りける 田子の浦を通り 眺めのよいところに出て望み見ると 真っ白に富士の高嶺に 雪が降り積もっている	可	0:05	(ch3)
6	1	5	2009/1/9	日めくり万葉集	大伴坂上郎女 (巻4・527) 口語訳	5	来むと言ふも 来ぬ時あるを 来じと言ふを 来むとは待たじ 来じと言ふものを あなたは「来(こ)よう」と言っても来ない時があるのですもの「来(こ)ない」と言うのを それでもひよつとしたら「来られるかも」などと 頼みに思って待つことなどやめておきましょう「来ない」と言っているのですもの	可	0:05	(ch3)
6	1	6	2009/1/12	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・894) 口語訳	6	神代より 言ひ伝えて来らく そらみつ 大和の国は 皇神の 厳しき国言霊の 幸はふ国と 語り継ぎ 言ひ継がひけり・・・ 神代以来 言い伝えられてきたことですが(そらみつ)大和の国は 国を治める神の威厳ある国 言霊(ことだま)が幸(さいわい)をもたらす国と 語り継ぎ言い継いでできました(抜粋)	可	0:05	(ch3)
6	1	7	2009/1/13	日めくり万葉集	元興寺の僧 (巻6・1018) 口語訳	7	白玉は 人に知らえず 知らずともよし 知らずとも 我し知れば 知らずともよし 真珠は 人に知られない 人が知らなくたってかまわない さて 知らなくたって 自分さえ価値知っていれば 知らなくたってかまわない	可	0:05	(ch3)
6	1	8	2009/1/14	日めくり万葉集	長意吉麻呂 (巻16・3829) 口語訳	8	醬酢に 蒜搗き合てて 鯛願ふ 我にな見えそ 水葱の羹 酢味噌にニンニクを搗きまぜたタレを作って鯛を食いたいと願っている この俺様の目に見えてくれるなよ まずい水葱(なぎ)の吸い物なんかは	可	0:05	(ch3)
6	1	9	2009/1/15	日めくり万葉集	大伴家持 (巻4・736) 口語訳	9	月夜には 門に出で立ち 夕占問ひ 足占をせし 行かまくを欲り 月の照る晩には 門のところへ出て行き 門占いをしてみたり 地面を踏みながら足占いをしてみたりした あなたの所に行きたくて	可	0:05	(ch3)
6	1	10	2009/1/16	日めくり万葉集	作者未詳 (巻12・2904) 口語訳	10	恋ひ恋ひて 後も逢はむと 慰もる 心しなくは 生きてあらめやも 恋しくて恋しくて この後会えるだろうと自分を慰める気持ちをもたなければ とても生きて行けそうもない	可	0:05	(ch3)
6	1	11	2009/1/19	日めくり万葉集	沙弥満誓 (巻3・351) 口語訳	11	世間を 何に喩へむ 朝開き 漕ぎ去にし船の 跡なきごとし この世の中を何にたとえよう 言わば 朝早く港を漕ぎ出で行った船の波の跡が残っていないようなものだ	可	0:05	(ch3)
6	1	12	2009/1/20	日めくり万葉集	天武天皇 (巻2・103) 口語訳	12	我が里に 大雪降り 大原の 古りにし里に 降らまくは後 おまえはうらやましがるだろうな 私の里にはもう雪がたんと降り積もってきている そなたの住む大原の古びた里に雪がふるのはしばらく先になるのだろうかからね	可	0:05	(ch3)
6	1	13	2009/1/21	日めくり万葉集	舒明天皇 (巻1・2) 口語訳	13	大和には 群山あれど とりよるふ 天の香具山 登り立ち国見をすれば 国原は 煙立ち立つ 海原は かまめ立ち立つまじ国そ あきづ島 大和の国は 大和には多くの山々があるけれど なかでもとりわけ美しい天の香具山 登り立って国見をすると国原にはかまどの煙があちこちから立ちのぼっている 海原にはカモメが盛んに飛び立っている ああ良い国だ(あきづ島)大和の国は	可	0:05	(ch3)
6	1	14	2009/1/22	日めくり万葉集	清江娘子 (巻1・69) 口語訳	14	草枕 旅行く君と 知らませば 岸の黄土に にほはさましを (草枕)旅のお方と存じ上げていたら 住江(すみのえ)の岸の黄土(はにつち)で衣を染めてさしあげましたのに	可	0:05	(ch3)
6	1	15	2009/1/23	日めくり万葉集	作者未詳 (巻16・3874) 口語訳	15	射ゆ鹿を 認ぐ川辺の 和草の 身の若かへに さ寝し子らはも 矢を射られた鹿の跡を追いかけていった川の辺りの柔らかな草 そういえば おれの肉体がああ草のように若くしなやかだった日に抱いた乙女よ ああ	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考		
A	B	C								
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。						
6	1	16	2009/1/26	日めくり万葉集	作者未詳 (巻11・2599) 口語訳	16	験なき 恋をもするか 夕されば 人の手まきて 寝らむ児故に 甲斐もない恋をすることか 夕方になると他の男の手枕をして寝るであろうあの娘のせいで	可	0:05	(ch3)
6	1	17	2009/1/27	日めくり万葉集	但馬皇女 (巻2・116) 口語訳	17	人言を 繁み言痛み 己が世に いまだ渡らぬ 朝川渡る 口さがない世間の噂がうるさくわすらわしいので 今こそ 生まれてから渡ったこともない朝の川を渡ろう 明るい向こう岸へ 愛しい人のいる場所へ	可	0:05	(ch3)
6	1	18	2009/1/28	日めくり万葉集	志貴皇子 (巻3・267) 口語訳	18	むささびは 木末求むと あしひきの 山の獵師に あひにけるかも むささびは 梢にのぼろうとして (あしひきの)山の獵師に出会ってしまったことだ	可	0:05	(ch3)
6	1	19	2009/1/29	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・880) 口語訳	19	天さがる 鄙に五年 住まひつつ 都のてぶり 忘れにけり (天さがる)田舎に五年も住み続けて 都のふるまいをすっかり忘れてしまいました	可	0:05	(ch3)
6	1	20	2009/1/30	日めくり万葉集	作者未詳 (巻12・3101) 口語訳	20	紫は 灰さすものそ 海石榴市の 八十の衢に 逢へる子や誰 貴い紫色の染汁には 椿の灰を入れるもの 椿の並木のある その名も海石榴市(つばきいち)のいくつもの道につながらずに出会った乙女よ あなたは誰	可	0:05	(ch3)
6	1	21	2009/2/2	日めくり万葉集	大伴家持 (巻17・4028) 口語訳	21	妹に逢はず 久しくなりぬ 饒石川 清き瀬ごとに 水占延へてな 妻に逢わずに 久しい時が過ぎた 饒石川(にぎしがわ)の清らかな瀬ごとに 水占いをしよう	可	0:05	(ch3)
6	1	22	2009/2/3	日めくり万葉集	高市黒人 (巻3・275) 口語訳	22	いづくにか 我が宿せむ 高島の 勝野の原に この日暮れなば どこでわたしは宿ろうか 高島の勝野の原でこの日が暮れてしまったら	可	0:05	(ch3)
6	1	23	2009/2/4	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・892) 口語訳	23	天地は 広しといへど 我がためは 狭くやなりぬる 日月は 明しといへど 我がためは 照りや給はぬ 人皆か 我のみや然るわくらばに 人とはあるを 人並に 我もなれるを・・・ 天地は広いと言うが 私には狭くなったのか 日や月は明るいと言うが 私のためには照ってくだらないのか 人は皆こうなのか 私だけにこうなのか 運良く人に生まれつき 人並みに私も育ったのに	可	0:05	(ch3)
6	1	24	2009/2/5	日めくり万葉集	但馬皇女 (巻8・1515) 口語訳	24	言繁き 里に住まはずは 今朝鳴きし 雁にたぐひて 行かましものを 口やかましい里になんか住んでいないで 今朝鳴いた 雁と連れ立って 飛んで行ってしまえばよかったのに	可	0:05	(ch3)
6	1	25	2009/2/6	日めくり万葉集	有間皇子 (巻2・141) 口語訳	25	磐代の 浜松が枝を 引き結び ま幸くあらば またかへり見む いま 磐代の浜の松の枝を引き結ぶ もし 願いが通じ命が無事ならば また ここに戻り松を見よう	可	0:05	(ch3)
6	1	26	2009/2/9	日めくり万葉集	倭太后 (巻2・148) 口語訳	26	青旗の 木幡の上を 通ふとは 目には見れども 直に逢はぬかも 青々と旗のように茂る木幡の山の上を 大君の魂が抜け出して 行きつ戻りつすることは 目には見えるけれど 直にはお逢いできないことだ	可	0:05	(ch3)
6	1	27	2009/2/10	日めくり万葉集	高市黒人 (巻1・32) 口語訳	27	古の 人に我あれや 楽浪の 古き都を 見れば悲しき 私はいにしえの人のなのだろうか いや そうではない ののに 楽浪(ささなみ)の古い都を見ると悲しい	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考	
A	B	C							
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。					
6	1	28	2009/2/11	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・904)	白玉の 我が子古日は 明星の 明る朝は きたへの 床の辺去らず 立てれども 居れども 共に戯れ 夕星の 夕になれば いざ寝よと 手を携はり 父母も うへはなさがり さきくさの 中に寝むと 愛しく しが語らへば・・・<中略> 我乞ひ禱めど しましくも 良けくはなしに やくやくに かたちつほり 朝な朝な 言ふこと止み たまきはる 命絶えぬれ 立ち躍り 足すり叫び 伏し仰ぎ 胸打ち嘆き 手に持てる 我が子飛ばしつ 世間の道	可	0:05	(ch3)
					口語訳	白玉のようなわが子古日は 明けの明星が輝く朝になれば 床のあたりを離れず 立っても座っても ともに戯れ 宵の明星が輝く 夕べになれば 「さあ一緒に寝よう」と 手をとって 「お父さんもお母さんも そばを離れないでね ぼくは真ん中で寝るんだよ」と可愛く言う <中略> 私はひたすら祈ったけれども 少しの間も良くはならず だんだんと姿はやつれ 朝ごとに ものも言わなくなり 命は絶えてしまった私は跳びあがり 地団駄を踏み 地に伏し 天を仰ぎ 胸をたたいて嘆いた ああ 私の手の 中のいとしい子どもを死なせてしまった これが世の無常というものか			
6	1	29	2009/2/12	日めくり万葉集	紀少鹿女郎 (巻8・1661)	ひさかたの 月夜を清み 梅の花 心開けて 我が思へる君	可	0:05	(ch3)
					口語訳	空遠くまで輝く月夜が清らかなので 夜開く梅の花のように 心も晴れ晴れと 私が慕いするあなたよ			
6	1	30	2009/2/13	日めくり万葉集	作者未詳 (巻7・1175)	足柄の 箱根飛び越え 行く鶴の ともしき見れば 大和し思ほゆ	可	0:05	(ch3)
					口語訳	足柄の箱根の山を飛び越えて行く鶴の うらやましい姿を見ると 故郷の大和が思われることだ			
6	1	31	2009/2/16	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻5・822)	我が園に 梅の花散る ひさかたの 天より雪の 流れ来るかも	可	0:05	(ch3)
					口語訳	私の園に 梅の花が散る 天から雪が 流れて来るのだろうか			
6	1	32	2009/2/17	日めくり万葉集	志貴皇子 (巻1・64)	葦辺行く 鴨の羽がひに 霜降りて 寒き夕へは 大和し思ほゆ	可	0:05	(ch3)
					口語訳	葦辺を泳いで行く鴨の背に霜が降って 寒い夕暮は 大和が思われる			
6	1	33	2009/2/18	日めくり万葉集	作者未詳 (巻14・3539)	あずの上に 駒を繋ぎて 危ほかど 人妻児ろを 息に我がする	可	0:05	(ch3)
					口語訳	崩れた崖のその上に 大事な馬をつなぎとめるような そんな危うい恋だけど 人妻のその女を 息のように私は深く愛する 命をかけて			
6	1	34	2009/2/19	日めくり万葉集	作者未詳 (巻8・1657)	官にも 許したまへり 今夜のみ 飲まむ酒かも 散りこすなゆめ	可	0:05	(ch3)
					口語訳	今日のような宴は 役所でもお許しになっている 今宵だけ 飲もうと思う酒なのかい 梅のあるうちは こうして集まれるよ だから梅の花よ 散ってくれるなよ ゆめゆめ			
6	1	35	2009/2/20	日めくり万葉集	山上憶良 (巻6・978)	士やも 空しくあるべき 万代に 語り継ぐべき 名は立てずして	可	0:05	(ch3)
					口語訳	男たるもの 無駄に一生を送ってよいものか 永遠に語り継ぐべき名声をあげもしないで			
6	1	36	2009/2/23	日めくり万葉集	依羅娘子 (巻2・225)	直の逢ひは 逢ひかつましじ 石川に 雲立ち渡れ 見つづ偲はむ	可	0:05	(ch3)
					口語訳	じかに逢おうとしても 逢えないでしょう 石川に雲よ 一面にかかってくれ それを形見と見ながら あなたを偲びましょう			
6	1	37	2009/2/24	日めくり万葉集	山部赤人 (巻3・318)	田子の浦ゆ うち出でて見れば ま白にそ 富士の高嶺に雪は降りける	可	0:05	(ch3)
					口語訳	田子の浦を通り 眺めのよいところに出てみると 真っ白に富士の高嶺に雪が降り積もっている			
6	1	38	2009/2/25	日めくり万葉集	大伴家持 (巻18・4134)	雪の上に 照れる月夜に 梅の花 折りて贈らむ 愛しき児もがも	可	0:05	(ch3)
					口語訳	雪の上に月の照り輝く美しい夜に 梅の白い花を折って贈ってやるような かわいい娘がいたらいいなあ			
6	1	39	2009/2/26	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より (巻7・1273)	住吉の 波豆麻の君が 馬乗衣 さびづらふ 漢女を握て縫へる衣ぞ	可	0:05	(ch3)
					口語訳	住吉(すみのえ)の波豆麻(はずま)のあの方の乗馬服はね 大陸から渡来した女性を雇って縫わせた服なんですよ			
6	1	40	2009/2/27	日めくり万葉集	大伯皇女 (巻2・165)	うつそみの 人なる我や 明日よりは 二上山を 弟と我が見む	可	0:05	(ch3)
					口語訳	この世の人である私は 明日からは 二上山を弟として見るのでしょうか			
6	1	41	2009/3/2	日めくり万葉集	有間皇子 (巻2・142)	家にあれば 筥に盛る飯を 草枕 旅にしあれば 椎の葉に盛る	可	0:05	(ch3)
					口語訳	家にいると 美しい器に盛るご飯を 旅の途中なので 思うにまかせず 椎の葉に盛ることだ			

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考	
A	B	C							
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。					
6	1	42	2009/3/3	日めくり万葉集	作者未詳 (巻10・1833) 口語訳	42 梅の花 降り覆ふ雪を 包み持ち 君に見せむと 取れば消につつ 梅の花を降り隠すように覆った雪を包み持ち あの人の見せようとするのですが 手に取るそばから消えてゆきます	可	0:05 (ch3)	
6	1	43	2009/3/4	日めくり万葉集	作者未詳 (巻12・3100) 口語訳	43 思はぬを 思ふと言はば 真鳥住む 雲梯の社の 神し知らさむ 思ってもいないのに 思っていると言ったら 真鳥の住む 雲梯の杜(うなてのもり)の恐ろしい神がお知りになるでしょう	可	0:05 (ch3)	
6	1	44	2009/3/5	日めくり万葉集	大伴百代 (巻4・559) 口語訳	44 事もなく 生き来しものを 老いなみに かかる恋にも 我はあへるかも なんということもなく平凡に生きてきたというのに 老いなみ迫る今になり はっと目が覚めるような恋に 私は出会ったことよ	可	0:05 (ch3)	
6	1	45	2009/3/6	日めくり万葉集	大伴坂上郎女 (巻17・3927) 口語訳	45 草枕 旅行く君を 幸くあれと 斎瓮据ゑつ 我が床の辺に 旅行くあなたが無事なようにと 神に祈るため 斎瓮(いわいへ)を据えました 私の床のそばに	可	0:05 (ch3)	
6	1	46	2009/3/9	日めくり万葉集	大伴稲麻呂 (巻20・4346) 口語訳	46 父母が 頭掻き撫で 幸くあれと 言ひし言葉ぜ 忘れかねつる 別れの時に 父と母とが 私の頭を撫でまわし 「幸(さ)くあれ くれぐれも無事でお帰り」と言った言葉が忘れられない	可	0:05 (ch3)	
6	1	47	2009/3/10	日めくり万葉集	東歌・下総国歌 (巻14・3387) 口語訳	47 足の音せず 行かむ駒もが 葛飾の 真間の継ぎ橋 止まず通はむ 足音を立てずに行く馬があればなあ あの葛飾の真間の継ぎ橋を 毎日通っていきたい	可	0:05 (ch3)	
6	1	48	2009/3/11	日めくり万葉集	大伴家持 (巻19・4139) 口語訳	48 春の園 紅にはふ 桃の花 下照る道に 出で立つ娘子 春の園の 紅色に美しく咲いている桃の花の木の下まで照り輝く道に出て たたずむ乙女よ	可	0:05 (ch3)	
6	1	49	2009/3/12	日めくり万葉集	東歌・上野国歌 (巻14・3403) 口語訳	49 我が恋は まさかもかなし 草枕 多胡の入野の 奥もかなしも 私の恋は今もかなしい 草を枕の 多胡の入野の行く末もかなしい	可	0:05 (ch3)	
6	1	50	2009/3/13	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻2・207) 口語訳	50 我が恋ふる 千重の一重も 慰もる 心もありやと 我妹子が 止まず出で見し 軽の市に 我が立ち聞けば 玉だすき 畝傍の山に 鳴く鳥の 声も聞こえず 玉粹の 道行き人も ひとりだに 似てし行かねば すべをなみ 妹が 名呼びて 袖そ振りつる (抜粋) 私の恋の想いが千に一つでも和らぐかと 我が妻がよく出かけて見ていた 軽の市(かるのいち)にたたずみ 耳を澄ましても畝傍山(うねびやま)に 鳴く鳥の声も聞こえない 道行く人に妻に似た人もいない もう何をどうしてよいかわからなくなって 思わず妻の名前を叫び あてもなく袖を振り続けた	可	0:05 (ch3)	
6	1	51	2009/3/16	日めくり万葉集	佐為王の婢 (巻16・3857) 口語訳	51 飯食めど うまくもあらず 寝ぬれども 安くもあらず あかねさす君がこころし 忘れかねつも ご飯を食べるのがおいしくもない 眠っていても落ち着かない はつらつと輝くあなた その心が忘れられないの	可	0:05 (ch3)	
6	1	52	2009/3/17	日めくり万葉集	大伯皇女 (巻2・105) 口語訳	52 我が背子を 大和へ遣ると さ夜ふけて 暁露に 我が立ち濡れし 弟を大和へ送り返そうとして 夜がふけ 暁の露に わたくしは立ち濡れてしまった	可	0:05 (ch3)	
6	1	53	2009/3/18	日めくり万葉集	東歌・常陸国歌 (巻14・3351) 口語訳	53 筑波嶺に 雪かも降らる いなをかも かなしき児ろが 布乾さるかも 筑波の嶺に雪が積もっているのかも いや そうではないのかも かわいいあの娘が真っ白な布を干しているのかも	可	0:05 (ch3)	
6	1	54	2009/3/19	日めくり万葉集	作者未詳 (巻7・1414) 口語訳	54 薦枕 相まきし児も あらばこそ 夜の更くらくも 我が惜しみせめ 薦(こも)で作った質素な枕を共にして寝たあの子がこの世にいたならば 夜の更けることを惜しみもしようが	可	0:05 (ch3)	
6	1	55	2009/3/20	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より (巻13・3254) 口語訳	55 磯城島の 大和の国は 言霊の 助くる国ぞ ま幸くありこそ 磯城島(しきしま)の大和の国は 言霊が人を助ける国ですぞ 無事でいらしてくださいよ	可	0:05 (ch3)	
6	1	56	2009/3/23	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻2・133) 口語訳	56 笹の葉は み山もさやに さやげども 我は妹思ふ 別れ来ぬれば 笹の葉は山一面にさわさわとざわめくが その音にも紛れないで 私は一途に妻を思う 別れてきたのだから	可	0:05 (ch3)	

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分			代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考	
A	B	C								
6	1				NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。					
6	1	57	2009/3/24	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻2・220)	57	名ぐはし 狭岑の島の 荒磯面に 慮りて見れば 波の音の 繁き浜辺を しきたへの 枕になして 荒床に ころ伏す君が 家知らば 行きても告げむ 妻知らば 来も問はましを 玉粹の 道だに知らず おほほしく 待ちか恋ふらむ 愛しき妻らは (抜粋)	可	0:05	(ch3)
					口語訳		名前の美しい狭岑(さみね)の島の 荒磯(あらいそ)の上に 仮寝の小屋を作ってふと見ると 波の音のとどろく浜辺を枕にして 荒々しい石の床に横たわっている人の その家がわかれば行って 知らせましょう 妻が様子を 知ったら 来て尋ねもするだろうに ここへの道さえ知らず 心も晴れず 帰りを待ち焦がれているだろう いとしい妻は			
6	1	58	2009/3/25	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・450)	58	行くさには 二人我が見し この崎を ひとり過ぐれば 心悲しも	可	0:05	(ch3)
					口語訳		太宰府に赴任する行きしなに 妻と二人で見たこの岬を 帰りは一人で過ぎると 心悲しいことだ			
6	1	59	2009/3/26	日めくり万葉集	大伴家持 (巻19・4290)	59	春の野に 霞たなびき うら悲し この夕影に うぐひす鳴くも	可	0:05	(ch3)
					口語訳		春の野に霞がたなびいて なんとなく悲しい この夕暮れの光の中で うぐいすが鳴いているよ			
6	1	60	2009/3/27	日めくり万葉集	余明軍 (巻3・394)	60	標結ひて 我が定めてし 住吉の 浜の小松は 後も我が松	可	0:05	(ch3)
					口語訳		標(しめ)を結って私のものと定めておいた住吉の浜の小松は 後々も私の松だ			
6	1	61	2009/3/30	日めくり万葉集	作者未詳 (巻17・3895)	61	たまはやす 武庫の渡りに 天伝ふ 日の暮れ行けば 家をしそ思ふ	可	0:05	(ch3)
					口語訳		武庫(むこ)の渡し場で 空を行く日が暮れてゆくと なによりも家のことが思われる			
6	1	62	2009/3/31	日めくり万葉集	山部赤人 (巻3・317)	62	天地の 分れし時ゆ 神さびて 高く貴き 駿河なる 富士の高嶺を 天の原 振り放け見れば 渡る日の 影も隠らひ 照る月の 光も見えず 白雲も い行きはばかり 時じくそ 雪は降りける 語り継ぎ 言ひ継ぎ行かむ 富士の高嶺は	可	0:05	(ch3)
					口語訳		天と地が分かれた時から 神々しくて高く貴い 駿河の国にある富士の高嶺を 天空に振り仰いでみると 空を渡る太陽の姿も隠れ 照る月の光も見えない 白雲も進みかね 時を定めずいつも雪は降り積もっている 語り伝え言い継いでいこう この富士の高嶺は			
6	1	63	2009/4/1	日めくり万葉集	作者未詳 (巻12・3002)	63	あしひきの 山より出づる 月待つと 人には言ひて 妹待つ我を	可	0:05	(ch3)
					口語訳		「山から出る月を待っているのだ」と 人には言っておいて あの娘を待っている私だ			
6	1	64	2009/4/2	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・802)	64	瓜食めば 子ども思ほゆ 栗食めば まして思はゆ いくより 来りしものそ まなかひに もとなかかりて 安眠しなさぬ	可	0:05	(ch3)
					口語訳		瓜を食べると あどけない子どもたちの顔が思い出される 栗を食べるとなおさら思われる どういう縁でどこから私のもとに生まれてきたのか 目の前にやたらにちらついて安眠させてくれない			
6	1	65	2009/4/3	日めくり万葉集	聖徳太子 (巻3・415)	65	家にあらば 妹が手まかむ 草枕 旅に臥やせる この旅人あはれ	可	0:05	(ch3)
					口語訳		家にいたならば 妻の手枕で休むだろうに 旅先で倒れているこの旅人は ああ いたわしい			
6	1	66	2009/4/6	日めくり万葉集	大伴家持 (巻19・4292)	66	うらうらに 照れる春日に ひばり上がり 心悲しも ひとりし思へば	可	0:05	(ch3)
					口語訳		うららかに照っている春日に ひばりが青空に舞い上がり 心は悲しいことだ ひとり物思いをしていると			

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分			代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考		
A	B	C									
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。								
6	1	67	2009/4/7	日めくり万葉集	作者未詳 (巻16・3791)	67	にほひよる 児らが同年児には 蝮の腸 か黒し髪を ま櫛もち ここにかき垂れ(中略) さ丹つかふ 色なつかしき 紫の 大綾の衣 住吉の 遠里小野の ま櫛もち にほほす衣に 高麗錦 紐に縫ひ付け (中略)	可	0:05	(ch3)	
					稲寸娘子が 妻問ふと 我におこせし 彼方の 二綾裏沓 飛ぶ鳥の 明日香壮士が 長雨忌み 縫ひし黒沓 刺し履きて 庭にたたずめ 罷りな立ちと 禁め娘子が ほの聞きて 我におこせし 水縹の 絹の帯を 引き帯なす 韓帯に取らせ(中略)						
					古 ささきし我や はしきやし 今日やも児らに いさにとや 思はれてある 古の 賢しき人も 後の世の 鑑にせむと 老人を 送りし車 持ち帰りけり 持ち帰りけり						
					輝くばかりの皆さま方と同じ年頃には 私も黒くつややかな髪を 上等の櫛でといて このくらいまで垂らしたりしてね --- (中略) --- 赤みがかった色に似合う紫の大柄模様がついた 住吉の遠里小野の 櫛(はんのき)の実で渋く染め上げた衣を まとい ハイカラな高麗錦(こまにしき)を飾り紐に縫いつけたものさ --- (中略) ---						
				口語訳		稲寸娘子(いなきおとめ)が求婚の証しに私にくれた 彼方(おちかた)で作られた段だら縞の靴下を履き 明日香壮士(あすかおとこ)が長雨の湿気を避けて縫った黒の 皮靴をさあつと履いて 庭にたたずんでいたら「行っちゃだめ」と 引き止める禁め娘子(いさめおとめ)が 稲寸娘子(いなきおとめ)の 贈り物のことを小耳にはさんで 水色の絹の帯を 引き帯のように 韓帯(からおび)に取りつけてくれたものさ --- (中略) ---					
					その昔 こんなにも華やかにもてた私だというのに ああ みじめなものよ 今日のはかわいいあなた方に「さあ 本当かしら」と思われている 歳をとるとこんな風にされるから 昔の賢い人も 後の世の戒めにしよう と 老人を山に捨てに 行った車をまた持ち帰ったとき 持ち帰ったとき						
6	1	68	2009/4/8	日めくり万葉集	狭野弟上娘子 (巻15・3724)	68	君が行く 道の長手を 繰り畳ね 焼き滅ぼさむ 天の火もがも	可	0:05	(ch3)	
					口語訳		あなたが行く道の 長い道のりをたぐり寄せ 折れたたんで焼き滅ぼしてしまう そんな天の火が私は欲しい				
6	1	69	2009/4/9	日めくり万葉集	穂積親王 (巻16・3816)	69	家にありし 櫃にかぎ刺し 蔵めてし 恋の奴が つかみかかりて	可	0:05	(ch3)	
					口語訳		家にある 櫃(ひつ)にふたをし 鍵をかけてしまっておいたはずなのに 恋の奴(やつこ)めが抜け出して またぞろつかみかかってきて...				
6	1	70	2009/4/10	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻2・212)	70	衾道を 引手の山に 妹を置きて 山道を行けば 生けりともなし	可	0:05	(ch3)	
					口語訳		衾道(ふすまじ)を 引手の山の中にとしい人を葬って 山道を帰っていくと もう俺には生きているという実感が ない				
6	1	71	2009/4/13	日めくり万葉集	志貴皇子 (巻8・1418)	71	石走る 垂水の上の さわらびの 萌え出づる春に なりにけるかも	可	0:05	(ch3)	
					口語訳		岩を叩き しぶきを散らす滝のほとりの 蕨が芽を出し始める春になったんだ				
6	1	72	2009/4/14	日めくり万葉集	笠金村 (巻3・365)	72	塩津山 うち越え行けば 我が乗れる 馬そつまづく 家恋ふらしも	可	0:05	(ch3)	
					口語訳		塩津山を越えて行くと 私の乗っている馬がつまづく 家の者が私を恋しく思っているらしい				
6	1	73	2009/4/15	日めくり万葉集	大伴三中 (巻3・443)	73	大君の 命恐み おし照る 難波の国に あらたまの 年経るまでに 白たへの 衣も干さず 朝夕に ありつる君は いかさまに 思ひませか うつせみの 惜しきこの世を 露霜の 置きて去にけむ 時にあらずして(抜粋)	可	0:05	(ch3)	
					口語訳		天皇のご命令を謹んで承って 難波の国で 年が経つまで長い間 衣も洗い干す暇もなく 朝夕忙しくお仕えていたあなたは どのように思われて 惜しいこの世をあとに残して 逝ってしまったのであろうか 死ぬべき時でもないのに				

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考	
A	B	C							
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。					
6	1	74	2009/4/16	日めくり万葉集	作者未詳 (巻12・3020) 口語訳	74 斑鳩の 因可の池の 宜しくも 君を言はねば 思ひそ我がする 斑鳩(いかるが)の因可(よるか)の池の名前のように「よろしい人 好ましい人だ」と誰もあなたのことを言わないので 気をもんで 私はいます	可	0:05 (ch3)	
6	1	75	2009/4/17	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より (巻11・2453) 口語訳	75 春柳 葛城山に 立つ雲の 立ちても居ても 妹をしそ思ふ 葛城山に立つ雲のように 立っても座っても あの子のことばかりを思っている	可	0:05 (ch3)	
6	1	76	2009/4/20	日めくり万葉集	大伴家持 (巻4・743) 口語訳	76 我が恋は 千引きの石を 七ばかり 首に掛けむも 神のまにまに 私の恋は 千人引きの大石を 七つも首にかけるほど 重く切なかるうとも 神のご意思のままに	可	0:05 (ch3)	
6	1	77	2009/4/21	日めくり万葉集	山部赤人 (巻8・1424) 口語訳	77 春の野に すみれ摘みにと 来し我そ 野をなつかしみ 一夜寝にける 春の野に すみれを摘みに来た私は 野に魅せられて 思わず一夜を明かしてしまった	可	0:05 (ch3)	
6	1	78	2009/4/22	日めくり万葉集	作者未詳 (巻10・1879) 口語訳	78 春日野に 煙立つ見ゆ 娘子らし 春野のうはぎ 摘みて煮らしも 春日野に煙が立ち上るのが見えるよ 若い娘たちが集まって 春の野のうはぎを摘んで煮ているのだろうか	可	0:05 (ch3)	
6	1	79	2009/4/23	日めくり万葉集	大伴家持 (巻18・4077) 口語訳	79 我が背子が 古き垣内の 桜花 いまだ含めり 一目見に来ね 親しい友よ 君が住んでいた屋敷の桜の花は まだつぼみだ 一目見において	可	0:05 (ch3)	
6	1	80	2009/4/24	日めくり万葉集	東歌 (巻14・3560) 口語訳	80 真金吹く 丹生のま朱の 色に出て 言はなくのみそ 我が恋ふらくは 鉄を精錬する 炎のように赤い 丹生(にふ)の赤土のように 顔色に出して言わないだけで 私の恋する思いは	可	0:05 (ch3)	
6	1	81	2009/4/27	日めくり万葉集	雄略天皇 (巻1・1) 口語訳	81 籠もよ み籠持ち ふくしもよ みぶくし持ち この岡に 菜摘ます兒 家告らせ 名告らさね そらみつ 大和の国は 押しなべて 我こそ居れ しきなべて 我こそ居れ 我こそば 告らめ 家をも名をも 籠もよい籠を持ち 土を掘るへらもよいへらを持って この私の丘で若菜を摘んでいらっしゃる娘さん あなたの家をおっしゃい 名を名乗ってくださいな 大和の国は 押しなびかすように すっかり私が治めている 敷きなびかすように 隅々まで私が支配している 私こそは名乗ろう 家をも名をも	可	0:05 (ch3)	
6	1	82	2009/4/28	日めくり万葉集	小野老 (巻3・328) 口語訳	82 あをによし 奈良の都は 咲く花の にほふがごとく 今盛りなり 奈良の都は 咲く花がらんまんと色美しいように 今が真っ盛りです	可	0:05 (ch3)	
6	1	83	2009/4/29	日めくり万葉集	高安王 (巻4・625) 口語訳	83 沖辺行き 辺を行き今や 妹がため 我が漁れる 藻臥東鮎 沖へ行き 岸辺をたどり たった今あなたのために獲った 藻に潜むこぶしほどの鮎です	可	0:05 (ch3)	
6	1	84	2009/4/30	日めくり万葉集	間人大浦 (巻3・289) 口語訳	84 天の原 振り放け見れば 白真弓 張りて掛けたり 夜道は良けむ 大空を振り仰いで見ると 白木の弓に 弦を張ったような半月がかかっている きつと夜道は良いだろう	可	0:05 (ch3)	
6	1	85	2009/5/1	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻1・42) 口語訳	85 潮さみに 伊良虞の島辺 漕ぐ船に 妹乗らむか 荒き島廻を 潮の騒ぐ折 伊良虞(いらご)の島辺を漕ぐ船に あの娘も乗っているだろうか 波の荒い 島の周りなのに	可	0:05 (ch3)	
6	1	86	2009/5/4	日めくり万葉集	常陸娘子 (巻4・521) 口語訳	86 庭に立つ 麻手刈り干し 布さらず 東女を 忘れたまふな 庭に生えている麻を刈り取って干しては 織った布を日に曝す(そんなつましい暮らしの中にいる)この東女をお忘れにならないでください	可	0:05 (ch3)	
6	1	87	2009/5/5	日めくり万葉集	山部赤人 (巻6・924) 口語訳	87 み吉野の 象山の際の 木末には ここども騒ぐ 鳥の声かも み吉野の象山(ささやま)の谷あいの木々の枝先でほら こんなににぎやかにさえずる鳥たちの声だ	可	0:05 (ch3)	
6	1	88	2009/5/6	日めくり万葉集	本人麻呂歌集より (巻10・189) 口語訳	88 春されば しだり柳の とををにも 妹は心に 乗りけるかも 春がきて芽吹くしだれ柳がたわたわと枝を垂らすように いたいあの娘が わたしの心にずしりと乗るかかって来て 心がいっぱいなんだ	可	0:05 (ch3)	

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	89	2009/5/7	日めくり万葉集	河辺東人 (巻8・1440) 口語訳	89	春雨の しくしく降るに 高円の 山の桜は いかにかあるらむ 春の雨が(追いかけるように)しきりに降りつついている 今頃たかまと山の桜はどうなっているのだろう 咲きはじめてただろうか	可	0:05	(ch3)
6	1	90	2009/5/8	日めくり万葉集	天武天皇 (巻1・27) 口語訳	90	淑き人の 良しとよく見て 良しと言ひし 吉野よく見よ 良き人よく見 昔の淑(よ)い人が よいところだとよく見て よいと言った この吉野をよく見なさい 今の良い人よ よく見なさい	可	0:05	(ch3)
6	1	91	2009/5/11	日めくり万葉集	鏡王女 (巻8・1419) 口語訳	91	神奈備の 磐瀬の社の 呼子鳥 いたくな鳴きそ 我が恋増さる 神奈備(かんなび)の 磐瀬(いわせ)の杜(もり)で鳴いている 呼子鳥(よぶこどり)よ そんなにひどく鳴かないで おくれ 私の切ない恋心がますます募ってしまうから	可	0:05	(ch3)
6	1	92	2009/5/12	日めくり万葉集	中大兄皇子 (巻1・14) 口語訳	92	香具山と 耳梨山と あひし時 立ちて見に來し 印南国原 香具山と耳梨山とが妻争いをしたとき 阿菩(あぼ)の大神が 立ちあがって 見に來たという 印南国原(いなみくに)はらだ ここは	可	0:05	(ch3)
6	1	93	2009/5/13	日めくり万葉集	山上憶良 (巻3・337) 口語訳	93	憶良らは 今は罷らむ 子泣くらむ それその母も 我を待つらむそ 憶良めは もうおいとまいたしましょう 家では子どもが泣いているでしょう それその子の母も 私を待っていること でしょうから	可	0:05	(ch3)
6	1	94	2009/5/14	日めくり万葉集	雄略天皇 (巻1・1) 口語訳	94	籠もよ み籠持ち ふくしもよ みぶくし持ち この岡に 菜摘ます兒 家告らせ 名告らさね そらみつ 大和の国は 押しなべて 我こそ居れ しきなべて 我こそ居れ 我こそは 告らめ 家をも名をも 籠もよい籠を持ち 土を掘るへらもよいへらを持って この私の丘で若菜を 摘んでいらっしゃる娘さん あなたの家をおっしゃい 名を名乗ってくださいな 大和の国は 押しなびかすように すっかり私が治めている 敷きなびかすように 隅々まで私が支配している 私こそは名乗ろう 家をも名をも	可	0:05	(ch3)
6	1	95	2009/5/15	日めくり万葉集	大伴家持 (巻17・4029) 口語訳	95	珠洲の海に 朝開きて 漕ぎ来れば 長浜の浦に 月照りにけり 珠洲(すず)の海に 朝早く船出して漕いでくると 長浜の浦では 月が照っていたことだ	可	0:05	(ch3)
6	1	96	2009/5/18	日めくり万葉集	高市皇子 (巻2・158) 口語訳	96	山吹の 立ちよそひたる 山清水 汲みに行かめど 道の知らなく 山吹が美しく咲き匂い立つ山の清水を 汲みに行きたいけれど その道が分からないのだ	可	0:05	(ch3)
6	1	97	2009/5/19	日めくり万葉集	東歌・信濃国歌(巻14・3352) 口語訳	97	信濃なる すがの荒野に ほとどぎす 鳴く声聞けば 時過ぎにけり 信濃の国にある 須我の荒野に 鳴き始めたホトトギス その声を聞くと もう時は過ぎ去ってしまったんだなあ	可	0:05	(ch3)
6	1	98	2009/5/20	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・338) 口語訳	98	験なき 物を思はずは 一坏の 濁れる酒を 飲むべくあるらし 甲斐のない物思いをするよりは いっそ一杯のにごり酒を 飲んだほうがいいうだ	可	0:05	(ch3)
6	1	99	2009/5/21	日めくり万葉集	持統天皇 (巻1・28) 口語訳	99	春過ぎて 夏来るらし 白たへの 衣干したり 天の香具山 春が過ぎて 夏が来たらしい 真っ白な衣が干してある 天の香具山には	可	0:05	(ch3)
6	1	100	2009/5/22	日めくり万葉集	高市黒人 (巻1・70) 口語訳	100	大和には 鳴きてか来らむ 呼子鳥 象の中山 呼びそ越ゆる 大和ではもう鳴いてから来たのだろうか 呼子鳥(よぶこどり)が 象(きさ)の中山を 愛しい子を呼ぶように 鳴きながら越えている	可	0:05	(ch3)
6	1	101	2009/5/25	日めくり万葉集	笠金村歌集より(巻2・230) 口語訳	101	高円山に 春野焼く 野火と見るまで 燃ゆる火を 何かと問へば 玉梓の 道來る人の 泣く涙 こさめに降れば 白たへの 衣ひづちて (中略) 語れば 心そ痛き 天皇の 神の皇子の 出でましの手火の光そ そこば照りたる (抜粋) 高円山(たかまとやま)で 春に野を焼く野火かと見間違うほど 盛んに燃える火を 「あれは何だ」と尋ねると 道を來る人は 涙を小雨のように降らせるので 白たえの着物はぐっしり濡れて -(中略)- わけを話すと心が痛い あれは天子様のお子 尊い神のお子様のご葬列を照らす たいまつ(たいまつ)の火が あんなにもたくさん照っているのです	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	102	2009/5/26	日めくり万葉集	東歌・相模国歌(巻14・3433) 口語訳	102	薪伐る 鎌倉山の 木垂る木を 待つと汝が言はば 恋ひつつやあらむ 薪を刈る かまが名につく 鎌倉山に枝葉を茂らす木じゃないが「松(待ちます)」とお前が言うならば こんなにやきもきと恋してなどいるものか	可	0:05	(ch3)
6	1	103	2009/5/27	日めくり万葉集	柿本人麻呂(巻1・31) 口語訳	103	楽浪の 志賀の大わだ 淀むども 昔の人に またも逢はめやも 楽浪(ささなみ)の志賀の入江は 流れることなく淀んでいても 昔の人に再び会うことができようか	可	0:05	(ch3)
6	1	104	2009/5/28	日めくり万葉集	作者未詳(巻12・2961) 口語訳	104	うつせみの 常の言葉と 思へども 継ぎてし聞けば 心惑ひぬ 世間に決まり文句だとは思うけど 聞かされ続けると 心はやはり迷うよ	可	0:05	(ch3)
6	1	105	2009/5/29	日めくり万葉集	大伴家持(巻19・4150) 口語訳	105	朝床に 聞けば遙けし 射水川 朝漕ぎしつつ 唱ふ舟人 朝の寝床で聞くと はるかに聞こえる 射水川(いみずかわ)を 朝漕ぎながら歌っている舟人の声が	可	0:05	(ch3)
6	1	106	2009/6/1	日めくり万葉集	海上女王(巻4・531) 口語訳	106	梓弓 爪引く夜音の 遠音にも 君の御幸を 聞かくし良しも お供の者が魔除けに梓の弓を 爪ではじく夜の音 その遠い弦の音のようにでも 君のお出ましのことをお聞き申すのは うれしいことでございます	可	0:05	(ch3)
6	1	107	2009/6/2	日めくり万葉集	額田王(巻1・20) 口語訳	107	茜さす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る ムラサキの生える 御料地の野をいらっしゃるあなた 野の番人に見られやしませんか そんなに袖を振って私をお誘いになっては	可	0:05	(ch3)
6	1	108	2009/6/3	日めくり万葉集	大海人皇子(巻1・21) 口語訳	108	紫の にほへる妹を 憎くあらば 人妻故に 我恋ひめやも 紫草の花のように美しいあなたを 憎いと思ったら 人妻であるのに どうして恋しく思いませんか	可	0:05	(ch3)
6	1	109	2009/6/4	日めくり万葉集	小野老(巻3・328) 口語訳	109	あをによし 奈良の都は 咲く花の にほふがごとく 今盛りなり 奈良の都は 咲く花がらんまんと色美しように 今が真っ盛りです	可	0:05	(ch3)
6	1	110	2009/6/5	日めくり万葉集	山上憶良(巻5・803) 口語訳	110	銀も 金も玉も なにせむに 優れる宝 子に及かめやも 銀も金も玉も どうして優れた宝は 子どもに及ぼうか 我が子以上の宝はないのだ	可	0:05	(ch3)
6	1	111	2009/6/8	日めくり万葉集	児部女王(巻16・3821) 口語訳	111	うましもの いづも飽かじを 坂門らが 角のふくれに しぐひあひにけむ 上質なものは どんなどころでも 飽きることはない良さがあるものなのに なんだってまた 坂門(さかと)のあの子は 角(家の)醜いふくれ男なんかにくつついてしまったんだろう	可	0:05	(ch3)
6	1	112	2009/6/9	日めくり万葉集	大伴家持(巻18・4104) 口語訳	112	我妹子が 心なぐさに 遣らむため 沖つ島なる 白玉もがも わが妻の気晴らしの種に送ってやろうと思うから はるか沖合の島の真珠がぜひ欲しいものだ	可	0:05	(ch3)
6	1	113	2009/6/10	日めくり万葉集	作者未詳 (詠者:陸奥国の前の采女) (巻16・3807) 口語訳	113	安積香山 影さへ見ゆる 山の井の 浅き心を 我が思はなくに 安積香山(あさかやま) その影まで見えてしまう山の井の浅いように 浅い心を わたくしは抱いてなどいるものですか	可	0:05	(ch3)
6	1	114	2009/6/11	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より (巻7・1247) 口語訳	114	大穴道 少御神の 作らしし 妹背の山を 見らくし良しも 大穴道(おおあなみち)の神と少御神(すくなみかみ)とがお作りになった 妹の山と背の山を見ることはうれしいなあ	可	0:05	(ch3)
6	1	115	2009/6/12	日めくり万葉集	笠女郎(巻4・593) 口語訳	115	君に恋ひ いたもすべなみ 奈良山の 小松が下に 立ち嘆かかも あなたに恋をして どうしていいかわからなくなったから 奈良山の小松の下に ぼんやり立ってため息ばかりついています	可	0:05	(ch3)
6	1	116	2009/6/15	日めくり万葉集	作者未詳(巻16・3852) 口語訳	116	いさなとり 海や死にする 山や死にする 死ぬれこそ 海は潮干て 山は枯れすれ 鯨を捕るあの海は死ぬのですか 山は死ぬのですか 死ぬれこそ 海は潮が引くし 山は枯れるのさ	可	0:05	(ch3)
6	1	117	2009/6/16	日めくり万葉集	志貴皇子(巻1・51) 口語訳	117	采女の 袖吹き返す 明日香風 都を遠み いたづらに吹く 采女の袖を吹き返す明日香風は 都が遠いので むなしく吹いている	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考		
A	B	C								
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。						
6	1	118	2009/6/17	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・797) 口語訳	118	悔しかも かく知らませば あをによし 国内ことごと 見せましものを ああ悔しいことだ こんなことになると思うたら 国中のすべてを見せてやればよかったのに	可	0:05	(ch3)
6	1	119	2009/6/18	日めくり万葉集	作者未詳 (巻16・3884) 口語訳	119	弥彦 神の麓に 今日らもか 鹿の伏すらむ 皮服着て 角つきながら いやひこの神の山の麓に 今日あたりも きっと 神の鹿が腹ばいになっているだろうよ 毛皮の服を着て 角をつけたままで	可	0:05	(ch3)
6	1	120	2009/6/19	日めくり万葉集	持統天皇 (巻1・28) 口語訳	120	春過ぎて 夏来るらし 白たへの 衣干したり 天の香具山 春が過ぎて 夏が来たらしい 真っ白な衣が干してある 天の香具山には	可	0:05	(ch3)
6	1	121	2009/6/22	日めくり万葉集	広河女王 (巻4・694) 口語訳	121	恋草を 力車に 七車 積みて恋ふらく 我が心から 恋草を荷車七台に積んで引くような苦しみの恋をしているのは そういえば自分の心から求めてしたことだった	可	0:05	(ch3)
6	1	122	2009/6/23	日めくり万葉集	大海人皇子 (巻1・21) 口語訳	122	紫の にほへる妹を 憎くあらば 人妻故に 我恋ひめやも 紫草の花のように美しいあなたを 憎いと思ったら 人妻であるのに どうして恋しく思いませんか	可	0:05	(ch3)
6	1	123	2009/6/24	日めくり万葉集	作者未詳 (巻13・3305) 口語訳	123	物思はず 道行く行くも 青山を 振り放け見れば つつじ花 にほえ娘子 桜花 栄え娘子 汝をそも 我に寄すといふ 我をもそ 汝に寄すといふ 荒山も 人し寄すれば 寄そるとぞいふ 汝が心ゆめ 何の物思いもしないで道を進んで行くのだが 青山をふり仰いで見ると つつじの花が美しい そのように美しいおとめよ 桜の花が今を盛りと咲いている そのように澁刺としたおとめよ おまえを 私とわけありのように言い寄せているそうだ 私を おまえといふ仲のように言い寄せているそうだ 荒山でさえ 人が寄せると寄せられると言う おまえは心に油断があっはいけないよ いいね	可	0:05	(ch3)
6	1	124	2009/6/25	日めくり万葉集	石川郎女 (巻2・129) 口語訳	124	古りにし 姫にしてや かくばかり 恋に沈まむ 手童のごと つかい古したお婆さんなのに まあどうしたことでしょう これほど恋に没頭するなんて まるで幼子みたい	可	0:05	(ch3)
6	1	125	2009/6/26	日めくり万葉集	大伴家持 (巻4・715) 口語訳	125	千鳥鳴く 佐保の川門の 清き瀬を 馬打ち渡し いつか通はむ 千鳥の鳴く佐保川の渡し場の清い瀬を 馬を渡して いつかあなたのもとへ通いたい	可	0:05	(ch3)
6	1	126	2009/6/29	日めくり万葉集	東歌・上野国歌(巻14・3414) 口語訳	126	伊香保の やさかのみでに 立つ虹の 頭はるまでも さ寝をさ寝てば 伊香保の幾尺とも高さ知らずの井堰(いぜき)に現れる虹のようにはっきりと 様子が露わになるくらいまで ずっとお前と寝ていられたらなあ	可	0:05	(ch3)
6	1	127	2009/6/30	日めくり万葉集	東歌 (巻14・3463) 口語訳	127	間遠くの 野にも逢はなむ 心なく 里のみ中に 逢へる背なかも どこか遠い野原とかで会いたかったな 察しが悪いんだから よりによって里の真ん真ん中で出会った いとお方	可	0:05	(ch3)
6	1	128	2009/7/1	日めくり万葉集	大伴家持 (巻18・4110) 口語訳	128	左夫流児が 斎さし殿に 鈴掛けぬ 駅馬下れり 里もとどろに 左夫流児(さぶるこ)が 大切にしてくしづく御殿に 鈴もかけない早馬が都から下ってきた 里中とどろくばかりのすごい音で	可	0:05	(ch3)
6	1	129	2009/7/2	日めくり万葉集	遣新羅使人(巻15・3623) 口語訳	129	山の端に 月傾けば いざりする 海人の灯火 沖になづさふ 山の端に月が傾くと 漁をしている海人の灯火が 沖にともって漂うようにちらちらしている	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考	
A	B	C							
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。					
6	1	130	2009/7/3	日めくり万葉集	山上憶良 (巻8・1520)	彦星は 織女と 天地の 別れし時ゆ いなむしろ 川に向き立ち 思ふそら 安けなくに 嘆くそら 安けなくに 青波に 望みは絶えぬ 白雲に 涙は尽きぬ かくのみや 息づき居らむ かくのみや 恋ひつつあらむ さ丹塗りの小舟もがも 玉巻きの ま櫂もがも (抜粋)	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	130	彦星(ひこぼし)は織姫星(たなばたつめ)と 天と地とが分かれた遠い時代から 天の川に向かって立ち 恋する心のうちは苦しくて 嘆く胸のうちは落ち着きもせず 青い波で向こう岸が見えなくなってしまった 白雲が隔てた遙けさに涙は涸れてしまった ああ こんなにばかり ため息ついていられようか こんなにばかり 恋い焦がれていられるものか 赤く美しく塗られた小舟が欲しい 玉を巻き付けた櫂がないものか			
6	1	131	2009/7/6	日めくり万葉集	作者未詳 (巻7・1265)	今年行く 新島守が 麻衣 肩のまよひは 誰か取り見む	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	131	今年送られていく 新しい防人(さきもり)の麻の衣の肩のほつれは いったい誰が繕ってやるのだろうか			
6	1	132	2009/7/7	日めくり万葉集	大伯皇女 (巻2・105)	我が背子を 大和へ遣ると さ夜ふけて 暁露に 我が立ち濡れし	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	132	我が弟を大和へと送り返すと 夜は深く沈み あかつきの露に わたくしは立ちつくしたままぬれてしまった			
6	1	133	2009/7/8	日めくり万葉集	高市黒人 (巻1・58)	いづくにか 舟泊すらすら 安礼の崎 漕ぎたみ行きし 棚なし小舟	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	133	今ごろ どこに舟泊まりをしているのであろうか 安礼(あれ)の崎を こぎめぐって行った あの舟棚(ふなだな)もない小さな舟は			
6	1	134	2009/7/9	日めくり万葉集	笠女郎 (巻4・598)	恋にもそ 人は死にする 水無瀬川 下ゆ我瘦す 月に日に異に	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	134	恋のために人は死にもするようです 水無瀬川(みなせがわ)の伏流水のように 人知れず<恋する人に見られることもなく>私はやせ衰えてゆきます 月日を追うごとに			
6	1	135	2009/7/10	日めくり万葉集	山上憶良 (巻8・1527)	彦星し 妻迎へ舟 漕ぎ出らし 天の川原に 霧の立てるは	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	135	彦星(ひこぼし)が妻を迎える船をこぎだしたようだ 天の河原に霧が立っているのは その水しぶきにちがいない			
6	1	136	2009/7/13	日めくり万葉集	作者未詳 (巻11・2798)	伊勢の海人の 朝な夕なに 潜くといふ 鮑の貝の 片思ひにして	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	136	伊勢の海人(あま)が 朝夕の副食物として潜って取るという あわびの貝のように 片思いのままで			
6	1	137	2009/7/14	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・452)	妹として 二人作りし 我が山斎は 木高く繁く なりにけるかも	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	137	妻と共に二人で造った我が家の庭園は 木立も高く すっかり生い茂ってしまったことだ			
6	1	138	2009/7/15	日めくり万葉集	作者未詳 (詠者:陸奥国の前の采女) (巻16・3807)	安積香山 影さへ見ゆる 山の井の 浅き心を 我が思はなくに	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	138	安積香山(あさかやま) その影まで見えてしまう山の井の浅いように 浅い心を わたくしは抱いてなどいるものですか			
6	1	139	2009/7/16	日めくり万葉集	東歌 (巻14・3521)	鳥とふ 大をそ鳥の まさでにも 来まさぬ君を ころくとそ鳴く	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	139	カラスという大まぬけ鳥が 確かにもいらっしやることのない君を あの児が来た「ころく」と鳴くんだよ			
6	1	140	2009/7/17	日めくり万葉集	高市黒人 (巻3・270)	旅にして もの恋しきに 山下の 赤のそほ舟 沖に漕ぐ見ゆ	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	140	旅にあつて なんとなく恋しい思いでいる折しも 山すそにいた朱塗りの船が沖に向かってこいで行くのが見える			
6	1	141	2009/7/20	日めくり万葉集	舍人皇子 (巻2・117)	ますらをや 片恋せむと 嘆けども 醜のますらを なほ恋ひにけり	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	141	立派なますらおが 届かぬ片思いなんかするものではないと嘆いてみるけれど みつともないこのますらおは それでも恋してしまっている 我ながら情けない			
6	1	142	2009/7/21	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より (巻7・1068)	天の海に 雲の波立ち 月の舟 星の林に 漕ぎ隠る見ゆ	可	0:05 (ch3)	
				口語訳	142	天の海に雲の波が立って 月の船が星の林にこぎ隠れて行くのが見える			

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	143	2009/7/22	日めくり万葉集	東歌・武蔵国歌(巻14・3373) 口語訳	143	多摩川に さらす手作り さらさらに なにそこの児の ここかなしき 多摩川にさらさらさらす手織り布 流れて白さが増すように さらにさらに なぜにこの子がこんなにも可愛いのか	可	0:05	(ch3)
6	1	144	2009/7/23	日めくり万葉集	作者未詳(巻7・1264) 口語訳	144	西の市に ただひとり出でて 目並はず 買ひてし絹の 商じこりかも 西の市にたった一人で出かけて 見比べもせずに 自分だけで見て買ってしまった絹の 買い損ないだよ	可	0:05	(ch3)
6	1	145	2009/7/24	日めくり万葉集	阿倍子祖父(巻16・3839) 口語訳	145	我が背子が 憤鼻にする 円石の 吉野の山に 氷魚そ懸れる うちの人がふんどしにする丸石のかたちよるしい吉野山に 小鮎の稚魚めがぶらさがっているわ	可	0:05	(ch3)
6	1	146	2009/7/27	日めくり万葉集	作者未詳(巻10・1828) 口語訳	146	答へぬに な呼びとよめそ 呼子鳥 佐保の山辺を 上り下りに お前に返事などするものなどないのだから そうむやみに呼び声を響かせるな 呼子鳥(よぶこどり)よ 佐保の山辺を上に行ったり下に行ったりして	可	0:05	(ch3)
6	1	147	2009/7/28	日めくり万葉集	紀女郎(巻8・1461) 口語訳	147	昼は咲き 夜は恋ひ寝る 合歡木の花 君のみ見めや 戯奴さへに見よ 昼は咲き 夜は誰かと恋して寝る合歡木(ねむ)の花ぞ 主人(あるじ)の我だけが独りで見るものではない 風流な若きしもべのそなたまでも見るがよい	可	0:05	(ch3)
6	1	148	2009/7/29	日めくり万葉集	元明天皇(巻1・78) 口語訳	148	飛ぶ鳥の 明日香の里を 置きて去なば 君があたりは 見えずかもあらむ 明日香の古京を後にして行ってしまったら あなたのあたりは 見えなくなりはいしないだろうか	可	0:05	(ch3)
6	1	149	2009/7/30	日めくり万葉集	大伴家持(巻18・4097) 口語訳	149	天皇の 御代栄えむと 東なる 陸奥山に 金花咲く 天皇の御代(みよ)が栄えるようにと 東国の果てのみちのく山に 黄金の花が咲いたよ	可	0:05	(ch3)
6	1	150	2009/7/31	日めくり万葉集	山上憶良(巻6・978) 口語訳	150	士やも 空しくあるべき 万代に 語り継ぐべき 名は立てずして 男たるもの 無駄に一生を終ってよいものか 永遠に語りつぐべき名声をあげもしないで	可	0:05	(ch3)
6	1	151	2009/8/3	日めくり万葉集	大伴家持(巻17・4001) 口語訳	151	立山に 降り置ける雪を 常夏に 見れども飽かず 神からならし 立山(たてやま)に降り積もった雪を 一年じゅう見ても見飽きることはない その山の神性ゆえらしい	可	0:05	(ch3)
6	1	152	2009/8/4	日めくり万葉集	東歌・上野国歌(巻14・3404) 口語訳	152	上野の 安蘇のま麻群 かき抱き 寝れど飽かぬを あどか我がせむ 上野(かみつ)の安蘇(あそ)の麻束を 抱きかかえて寝るのに満足しない 私はどうしたらよいのか (選者訳)	可	0:05	(ch3)
6	1	153	2009/8/5	日めくり万葉集	大伴家持(巻16・3853) 口語訳	153	父母が 頭掻き撫で 幸くあれて 言ひし言葉ぜ 忘れかねつる 別れの時に 父と母とが わたしの頭を両手で撫でまわしながら「幸くあれ」くれぐれも無事で過ごせーと言ったことばが 脳裏から離れない	可	0:05	(ch3)
6	1	154	2009/8/6	日めくり万葉集	大伴家持(巻16・3853) 口語訳	154	石麻呂に 我物申す 夏痩せに 良しいふものそ 鰻捕り喫せ 石麻呂殿に私が物を申そう 夏やせに効果てきめんということですよ 鰻を取って召し上がりなされ	可	0:05	(ch3)
6	1	155	2009/8/7	日めくり万葉集	阿倍子祖父(巻16・3838) 口語訳	155	我妹子が 額に生ふる 双六の 牡の牛の 鞍の上の瘡 うちの女房の額に生えてる 双六盤の 大きな牡牛の鞍の上にある瘡(かさぶた)	可	0:05	(ch3)
6	1	156	2009/8/24	日めくり万葉集	大伴家持(巻19・4143) 口語訳	156	ものふの 八十娘たちが 汲みまがふ 寺井の上の 堅香子の花 たくさんの娘子(おとめ)たちが 入り乱れて水をくむ 寺の井戸のほとりのかたくりの花よ	可	0:05	(ch3)
6	1	157	2009/8/25	日めくり万葉集	東歌・信濃国歌(巻14・3399) 口語訳	157	信濃道は 今の墾り道 刈りばねに 足踏ましむな 沓はけ我が背 信濃道は切り開いたばかりの新しい道です 切り株に足を踏みつけなされるなくつを履いていらっしやい あなた	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考	
A	B	C							
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。					
6	1	158	2009/8/26	日めくり万葉集	作者未詳 (巻16・3880) 口語訳	158 香島ねの 机の島の しただみを い拾ひ持ち来て 石もち つつき破り 速川に 洗ひ濯ぎ 辛塩に ごごと揉み 高坏に盛り 机に立てて 母にあへつや 目豆児の刀自 父にあへつや 身女兒の刀自 香島山 (かしまやま) 近くの机島 (つくえじま) の海岸から しただみを拾って持って来て 石で殻をつつき破り 流れの早い川で洗いすぎ清めてから 辛い塩にごしごしもんで 足の高い器に盛りつけ それを机の上に立ててう やうやく供え かあさまに差し上げたかい かわいいおかみさん どうさまに差し上げたかい 愛くるしいおかみさん	可	0:05	(ch3)
6	1	159	2009/8/27	日めくり万葉集	大伴坂上郎女 (巻8・1500) 口語訳	159 夏の野の 繁みに咲ける 姫百合の 知らえぬ恋は 苦しきものぞ 夏の野に生い茂る草のなかで ひそやかにあかく咲くひめゆりみたいに思う人に知ってもらえない恋は どうにも苦しいものです	可	0:05	(ch3)
6	1	160	2009/8/28	日めくり万葉集	中臣宅守 (巻15・3785) 口語訳	160 ほととぎす 間しまし置け 汝が鳴けば 我が思ふ心 いたもすべなし ほととぎすよ 間をしばらく置いてくれ お前が鳴くと 私の恋しく思う心が増さってどうしようもない	可	0:05	(ch3)
6	1	161	2009/8/31	日めくり万葉集	作者未詳 (巻7・1410) 口語訳	161 世間は まこと二代は 行かざらし 過ぎにし妹に 逢はなく思へば この世の中は ほんとうに二度はめぐっては来ないらしい 亡くなった妻に再び会えないことを思うと	可	0:05	(ch3)
6	1	162	2009/9/1	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より (巻7・1068) 口語訳	162 天の海に 雲の波立ち 月の舟 星の林に 漕ぎ隠る見ゆ 天の海に雲の波が立って 月の船が星の林にこぎ隠れて行くのが見える	可	0:05	(ch3)
6	1	163	2009/9/2	日めくり万葉集	依羅娘子 (巻2・140) 口語訳	163 な思ひそと 君は言ふとも 逢はむ時 いつと知りてか 我が恋ひざらむ そんなに思い悩むなと あなたは言うけれど 再びお会いできる日をいつと知って 私は恋せずにはいられないのです	可	0:05	(ch3)
6	1	164	2009/9/3	日めくり万葉集	大伴家持 (巻18・4086) 口語訳	164 油火の 光に見ゆる 我が縵 さ百合の花の 笑まはしきかも 油火の光にゆらゆら輝いて見える あなたにもらった私の花縵 (はなかつら) そのさゆりの花の なんともほほえましいことよ	可	0:05	(ch3)
6	1	165	2009/9/4	日めくり万葉集	中大兄皇子 (巻1・15) 口語訳	165 わたつみの 豊旗雲に 入り日見し 今夜の月夜 清く照りこそ 海の神がたなびかす ゆったりと広がる旗雲 (はたぐも) に 入り日を見た今夜の月は 清く照り輝いてほしい	可	0:05	(ch3)
6	1	166	2009/9/7	日めくり万葉集	大津皇子 (巻2・107) 口語訳	166 あしひきの 山のしづくに 妹待つと 我立ち濡れぬ 山のしづくに 山のしづくに いとお前が来るのを待って 立ちつくしたまま 俺はずいぶんとぬれた その山のしづくに	可	0:05	(ch3)
6	1	167	2009/9/8	日めくり万葉集	作者未詳 (巻7・1383) 口語訳	167 嘆きせば 人知りぬべみ 山川の 激つ心を 塞かへてあるかも 嘆いたら人に知られそうなので 山川の流れのような激しい恋心を 懸命にせき止めていることよ	可	0:05	(ch3)
6	1	168	2009/9/9	日めくり万葉集	作者未詳 (巻11・2542) 口語訳	168 若草の 新し枕を 巻きそめて 夜をや隔てむ 憎くあらなくに 新妻の 手枕を始めてから 一夜だって夜離 (よが) れをしようものか 憎くはないのに	可	0:05	(ch3)
6	1	169	2009/9/10	日めくり万葉集	大伴家持 (巻19・4158) 口語訳	169 年のはに 鮎し走らば 辟田川 鶺鴒つ潜けて 川瀬尋ねむ 毎年 鮎 (あゆ) が走り泳ぐころになったら 辟田川 (さきたがわ) に鶺鴒を8羽潜らせて 川瀬をたどって行こう	可	0:05	(ch3)
6	1	170	2009/9/11	日めくり万葉集	大伴家持 (巻20・4485) 口語訳	170 時の花 いやめづらしも かくしこそ 見し明らめめ 秋立つごとに 時宜を得て咲く花は ひとしお心ひかれるものです このようにして (これから時の花を) ご覧になり 心を晴らすことでありましょう 秋の訪れるその度ごとに	可	0:05	(ch3)
6	1	171	2009/9/14	日めくり万葉集	作者未詳 (巻7・1074) 口語訳	171 春日山 おして照らせる この月は 妹が庭にも さやけかりけり 春日山を一面に照らしているこの月は あの娘の家の庭にも明るく照っているよ	可	0:05	(ch3)
6	1	172	2009/9/15	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・803) 口語訳	172 銀も 金も玉も なにせむに 優れる宝 子に及かめやも 銀も金も玉も どうして優れた宝は子に及ぼうか 我が子以上の宝はないのだ	可	0:05	(ch3)
6	1	173	2009/9/16	日めくり万葉集	長意吉麻呂 (巻16・3826) 口語訳	173 蓮葉は かくこそあるもの 意吉麻呂が 家なるものは うもの葉にあらし 蓮葉は かくこそあるもの 意吉麻呂が 家なるものは うもの葉にあらし	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考		
A	B	C								
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。						
6	1	174	2009/9/17	日めくり万葉集	作者未詳(巻10・2233) 口語訳	174	高松の この峰も狭に 笠立てて 満ち盛りたる 秋の香の良さ 高松山のこの峰も所狭しとかさ立てて あたり一面真つ盛り 秋の香りのよいことよ	可	0:05	(ch3)
6	1	175	2009/9/18	日めくり万葉集	作者未詳(巻11・2802の或本歌) 口語訳	175	あしひきの 山鳥の尾の しだり尾の 長々し夜を 一人かも寝む あしひきの 山鳥の尾のように 長い長い夜を ただひとりて寝ることだろうか	可	0:05	(ch3)
6	1	176	2009/9/21	日めくり万葉集	大伴旅人(巻3・348) 口語訳	176	この世にし 楽しくあらば 来む世には 虫に鳥にも 我はなりなむ この世でさえ楽しかったら 来世(らいせ)では 虫にでも鳥にでもわたしはなってしまう	可	0:05	(ch3)
6	1	177	2009/9/22	日めくり万葉集	大伴家持(巻18・4094) 口語訳	177	大伴の 遠つ神祖の その名をば 大来目主と 負ひ持ちて 仕へし官 海行かば 水漬く屍 山行かば 草生す屍 大君の辺にこそ死なぬ かへり見は せじと言立て ますらをの 清きその名を 古よ 今の現に 流さへる 親の子どもそ 大伴と 佐伯の氏は (抜粋) 大伴の遠い祖先の神のその名前 大来目主(おおくめぬし)の名を背負いお仕えてきた役目である「海を行くならば水浸しの屍(しかばね)となり 山を行くならば草むす屍となり朽ち果てるとも 天皇のお側(そば)で死のう後(あと)を振り向きなどしない」と言葉に出して誓い 大夫(ますらお)のけがれなき名を はるか過去から今の代に盛んに伝えた祖先の末えいであるぞ大伴と佐伯の氏は	可	0:05	(ch3)
6	1	178	2009/9/23	日めくり万葉集	額田王(巻4・488) 口語訳	178	君待つと 我が恋ひ居れば 我がやどの 簾動かし 秋の風吹く 大君のお出ましを心待ちにして わたしが恋の思いに胸をときめかせていますと わが家の戸口のすだれを動かして 秋の風が吹いてくる	可	0:05	(ch3)
6	1	179	2009/9/24	日めくり万葉集	額田王(巻1・20) 口語訳	179	あかねさす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る 紫草の野を行き 標(しめ)を結う野を行き 野の番人は見ているではありませんか あなたが袖をお振りになるのを	可	0:05	(ch3)
6	1	180	2009/9/25	日めくり万葉集	狭野弟上娘子(巻15・3745) 口語訳	180	命あらば 逢ふこともあらむ 我が故に はだな思ひそ 命だに経ば 命があったら 会うこともありましょう わたしのことでそんなに思い悩まないでください 命さえ無事であったら	可	0:05	(ch3)
6	1	181	2009/9/28	日めくり万葉集	笠金村歌集より(巻2・231) 口語訳	181	高円の 野辺の秋萩 いたづらに 咲きか散るらむ 見る人なしに 高円(たかまと)の野辺の秋萩(あきはぎ)は 何のこいも無く咲き 今や散るのであろうか 見るはずの人もないままに	可	0:05	(ch3)
6	1	182	2009/9/29	日めくり万葉集	東歌(巻14・3529) 口語訳	182	等夜の野に 兎ねらはり をさをさも 寝なへ見故に 母にころはえ 等夜(とや)の野にウサギを狙うではないけれど <をさをさ>すなわち ろくすつぼ寝もしないあの娘のために おっかさんにこっぴどくしかられた	可	0:05	(ch3)
6	1	183	2009/9/30	日めくり万葉集	大伴家持(巻18・4114) 口語訳	183	なでしこが 花見るごとに 娘らが 笑まひのほひ 思ほゆるかも 庭に咲くなでしこの花を見るたびに あの人の笑顔の生き生きとした美しさが思われてならない	可	0:05	(ch3)
6	1	184	2009/10/1	日めくり万葉集	狭野弟上娘子(巻15・3774) 口語訳	184	我が背子が 帰来まさむ 時のため 命残さむ 忘れたまふな あなたが帰って来られる時のために この命を残しておきましょう お忘れにならないで下さい	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考	
A	B	C							
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。					
6	1	185	2009/10/2	日めくり万葉集	185	<p>なにせむに 我を召すらめや 明けく 我が知ることを 歌人と 我を召すらめや 笛吹きと 我を召すらめや 琴弾きと 我を召すらめや (抜粋) 馬にこそ ふもだしかくもの 牛にこそ 鼻繩はくれ (中略) おし照るや 難波の小江の 初垂を 辛く垂れ来て 陶人の作れる瓶を 今日行きて 明日取り持ち来 我が目らに 塩塗りたまひ はやすも はやすも (抜粋)</p> <p>いったいどうしようとして私をお召しになるのか とうに 私には知れたこと・・・はて 待てよ・・・歌手として私をお召しになるのか 笛吹きとして私をお召しになるのか 琴弾きとして私をお召しになるのだろうか (抜粋) 馬ならば絆し(ほだし)をかけるものだ 牛ならば鼻繩をつけて引くものだ なんとしたことか この蟹(かに)めを縄でぐるぐるお縛りなされて—中略— 明るい日ざしが降り注ぐ難波(なにわ)の入江で採れた塩のしづくの 初垂り(はつたり)を それはもう 辛く垂らしたのを絞ってきて 焼き物作りの陶工(すえひと)が こしらえる瓶(かめ)を 急な使いで 今日行き明日には取って持って来る慌ただしさで用意して 私の目にまでお塗りなされて 塩漬けのこの蟹を うまいうまいとご賞味なさるよ うまいうまいと ご賞味なさる (抜粋)</p>	可	0:05	(ch3)
6	1	186	2009/10/5	日めくり万葉集	186	<p>柿本人麻呂 (巻1・38)</p> <p>やすみしし 我が大君 神ながら 神さびせずと 吉野川 激つ河内に 高殿を 高知りまして 登り立ち 国見をせせば (中略) 行き浴ふ 川の神も 大御食に 仕へ奉ると 上つ瀬に 鶴川を立ち 下つ瀬に 小網さし渡す 山川も 依りて仕ふる 神の御代かも (抜粋)</p> <p>我が大君が 神であられるままに神らしく振る舞われるとて 吉野川の水の流れの激しい谷あいには 高殿(たかどの)を高々とお造りになり 登り立って国見をなさると —中略— 宮殿に沿って流れる川の神も 天皇のお食事に奉仕しようと 上の瀬で鶴飼いを催し 下の瀬に小網(さであみ)を張り渡している山や川の神までも心服してお仕える神の御代(みよ)であることよ (抜粋)</p>	可	0:05	(ch3)
6	1	187	2009/10/6	日めくり万葉集	187	<p>舒明天皇 (巻8・1511)</p> <p>夕されば 小倉の山に 鳴く鹿は 今夜は鳴かず 寝ねにけらしも</p> <p>夕暮れになると いつも小倉山で鳴く鹿は 今夜は鳴かない 妻に会えてもう寝てしまったようだ</p>	可	0:05	(ch3)
6	1	188	2009/10/7	日めくり万葉集	188	<p>遠江国の防人 生壬部足国 (巻20・4326)</p> <p>父母が 殿の後の ももよ草 百代いでませ 我が来るまで</p> <p>父母が住む屋敷の裏手に生える百代草(ももよぐさ) その名にあやかり 百代ご長寿にていらしてください 私が戻るその日まで</p>	可	0:05	(ch3)
6	1	189	2009/10/8	日めくり万葉集	189	<p>額田王 (巻1・7)</p> <p>秋の野の み草刈り葺き 宿れりし 宇治の都の 仮廬し思ほゆ</p> <p>秋の野の美しい草を刈って屋根にふき 旅宿りをした 宇治の都の 仮のいおりが思い出されます</p>	可	0:05	(ch3)
6	1	190	2009/10/9	日めくり万葉集	190	<p>作者未詳 (巻16・3791)</p> <p>春さりて 野辺を巡れば おもしろみ 我を思へか さ野つ鳥 来鳴き翔らふ 秋さりて 山辺を行けば なつかしと 我を思へか 天雲も 行きたなびく 反り立ち 道を来れば うちひさす 宮女 さすだけの 舎人壮士も 忍ぶらひ 反らひ見つつ 誰が子そとや思はれてある (抜粋)</p> <p>春になり 野辺をめぐる と 愉快な姿だと私のことを思うのか 野の鳥がやって来て鳴いて飛び回る秋が来て 山辺をゆくと すてきなひとと私を思うのか 空ゆく雲もゆるやかにたなびく きびすを返して 都大路に來ると 御所に仕える気取った宮女たちも りりしい舎人(とねり)の男たちも こっそりと振り返り見ながら あの美しい男はいったい誰の若君かと思われていたものさ</p>	可	0:05	(ch3)
6	1	191	2009/10/12	日めくり万葉集	191	<p>日下部三中 (巻20・4348)</p> <p>たらちねの 母を別れて まこと我 旅の仮廬に 安く寝むかも</p> <p>おっかさんの手元をお別れして 本当におれは旅の仮小屋で不安なく眠れるのだろうか</p>	可	0:05	(ch3)
6	1	192	2009/10/13	日めくり万葉集	192	<p>昔年の防人の妻 (巻20・4425)</p> <p>防人に行くは誰が背と 問ふ人を見るがともしさ 物思ひもせず</p> <p>「今年防人(さきもり)に行くのは 誰のだんななのかしら」と尋ねる人を見るとうらやましい なんの気苦労もしないで</p>	可	0:05	(ch3)
6	1	193	2009/10/14	日めくり万葉集	193	<p>大伴坂上郎女 (巻4・661)</p> <p>恋ひ恋ひて 逢へる時だに 愛しき 言尽くしてよ 長くと思はば</p> <p>恋して恋して やっと会えたときくらいは 愛らしいことばをいっぱい言い尽くしてください 私といつまでもお思いでしたら</p>	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考		
A	B	C								
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。						
6	1	194	2009/10/15	日めくり万葉集	高橋虫麻呂(巻9・1759)	194	鶯の住む 筑波の山の 裳羽服津の その津の上に 率ひて娘子壯士の 行き集ひ かがふ歌に 人妻に 我も交はらむ我が妻に 人も言問へ この山を うしはく神の 昔より 禁めぬ行事ぞ 今日のみは めぐしもな見そ 事も咎むな	可	0:05	(ch3)
				口語訳			ワシのすむ筑波の山の 裳羽服津(もはきつ)のその津の辺りに誘い合って若い男女が行き集まって遊ぶ歌(かがい)で人妻に私も交わろう 私の妻に他人も言い寄るがよいこの山を治める神が 昔からおとがめなさらぬ行事なのだ 今日だけはめぐしも見るな とがめ立てもするな			
6	1	195	2009/10/16	日めくり万葉集	大伯皇女(巻2・106)	195	二人行けど 行き過ぎ難き 秋山を いかにか君が ひとり越ゆらむ	可	0:05	(ch3)
				口語訳			二人で出かけても行き過ぎにくい寂しい秋の山道を 弟よ 今ごろどんな風に 君はただ独りで越えているのであるうか			
6	1	196	2009/10/19	日めくり万葉集	笠金村(巻8・1533)	196	伊香山 野辺に咲きたる 萩見れば 君が家なる 尾花し思ほゆ	可	0:05	(ch3)
				口語訳			伊香山(いかごやま)の野辺に咲いているハギをみるとあなたのお屋敷のすすきが 懐かしく思われます			
6	1	197	2009/10/20	日めくり万葉集	東歌(巻14・3459)	197	稲掲げば かかる我が手を 今夜もか 殿の若子が 取りて嘆かむ	可	0:05	(ch3)
				口語訳			始終稲をつくので あかぎれになったわたしの手を 今夜もお屋敷の若さまが手に取って「かわいそうだ つらいだろう」と 嘆くだろうか			
6	1	198	2009/10/21	日めくり万葉集	長意吉麻呂(巻16・3828)	198	香塗れる 塔にな寄りそ 川隈の 屎鮒食める いたき女奴	可	0:05	(ch3)
				口語訳			これこれ 香を塗りこめた高貴なその塔に近寄ってはならぬ汚物のたまる川の曲がり角のくそ鮒(ふな)を食うておる汚らわしい女奴(めやつこ)め			
6	1	199	2009/10/22	日めくり万葉集	東歌・相模国歌(巻14・3364)	199	足柄の 箱根の山に 粟蒔きて 実とはなれるを あはなくも怪し	可	0:05	(ch3)
				口語訳			足柄(あしがら)の箱根の山にあわをまいて 無事に実ったというのに会わないなんておかしいわ			
6	1	200	2009/10/23	日めくり万葉集	大伴家持(巻4・754)	200	夜のほども 我が出でて来れば 我妹子が 思へりし 面影に見ゆ	可	0:05	(ch3)
				口語訳			夜の闇がわずかに溶けはじめたころ 私が出て戻ってくると あなたの思いに沈んだ様子が 面影に浮かんで見えるのです			
6	1	201	2009/10/26	日めくり万葉集	柿本人麻呂(巻2・208)	201	秋山の 黄葉を繁み 惑ひぬる 妹を求めむ 山路知らずも	可	0:05	(ch3)
				口語訳			秋の山の黄葉が茂っているために 道に迷い帰るに帰れないでいる妻 そのいとしい妻を探し求めたいのだが おれにはその山道がわからないのだ			
6	1	202	2009/10/27	日めくり万葉集	聖徳太子(巻3・415)	202	家にあらば 妹が手まかむ 草枕 旅に臥やせる この旅人あはれ	可	0:05	(ch3)
				口語訳			家にいたら妻の手を枕とするだろうに 草を枕に旅路で臥せっておられるこの旅人は ああ いたわしい			
6	1	203	2009/10/28	日めくり万葉集	山上憶良(巻8・1537)	203	秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数ふれば 七種の花	可	0:05	(ch3)
				口語訳			秋の野原に咲いている花を 指を折って数えてみると ほら 7種の花がある			
6	1	204	2009/10/29	日めくり万葉集	大津皇子(巻8・1512)	204	経もなく 緯も定めず 娘子らが 織るもみち葉に 霜な降りそね	可	0:05	(ch3)
				口語訳			経糸もなく横糸もこしらえないで 色とりどりに娘たちが織る美しいもみじの葉に 霜よ降らないでおくれ			
6	1	205	2009/10/30	日めくり万葉集	狭野弟上娘子(巻15・3724)	205	君が行く 道の長手を 繰り畳ね 焼き減ぼさむ 天の火もがも	可	0:05	(ch3)
				口語訳			あなたが行く道の長い道の手繰り畳んで焼き減ぼしてしまう天の火が欲しい			
6	1	206	2009/11/2	日めくり万葉集	大伴家持(巻6・994)	206	振り放けて 三日月見れば 一目見し 人の眉引き 思ほゆるかも	可	0:05	(ch3)
				口語訳			はるかに空を振り仰ぎ 浮かぶ三日月を見てみると ただ一度きり見た人の 引いた眉毛の様子が思われてなりません			
6	1	207	2009/11/3	日めくり万葉集	但馬皇女(巻2・114)	207	秋の田の 穂向きの寄れる 片寄りに 君に寄りなな 言痛くありとも	可	0:05	(ch3)
				口語訳			秋の田の稲穂の向きが一方に片寄るように そんな風にあなたにばかり寄り添いたいです どんなに人の噂がきつても			
6	1	208	2009/11/4	日めくり万葉集	穂積皇子(巻8・1513)	208	今朝の朝明 雁が音聞きつ 春日山 もみちにけらし 我が心痛し	可	0:05	(ch3)
				口語訳			今朝の明け方 雁(かり)の声を聞いた 春日山はもう紅葉したにちがいない そう思うと私の心は痛む			

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	209	2009/11/5	日めくり万葉集	大伴家持(巻18・4111)	かけまくも あやに畏し 天皇の 神の大御代に 田道間守 常世に渡り 八杵持ち 参み出来し時 時じくの 香の 菓実を畏くも残したまへれ (抜粋)	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	209	口にかけていうのもまことおそれ多いことだが 天皇の御先祖の神の時代に 田道間守(たじまもり)が常世(とこよ)の国に渡って行き 多くの苗木を持って参上した時に その「時じくのかくの木の實」を かしこくも後の世にお残しになった (抜粋)			
6	1	210	2009/11/6	日めくり万葉集	作者未詳(巻11・2809)	今日なれば 鼻の鼻ひし 眉かゆみ 思ひしことは 君にしありけり	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	210	今日になってみると しきりにくしゃみが出て 眉がかゆくてもしやと思ったのは あなたの訪れの前兆だったのね			
6	1	211	2009/11/9	日めくり万葉集	磐姫皇后(巻2・88)	秋の田の 穂の上に霧らふ 朝霞 いつへの方に 我が恋止まむ	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	211	秋の田の稲穂の上にぼうっとかかっている朝かすみがどこかに消え散るように つか私の恋心は霧散するのだからか とても消えそうにない			
6	1	212	2009/11/10	日めくり万葉集	額田王(巻1・8)	熟田津に 舟乗りせむと 月待てば 潮もかなひぬ 今は漕ぎ出でな	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	212	熟田津(にきたつ)で 船出しようとして月の出を待っていると 月も出 幸い潮も満ちて来た さあ 今こそこぎ出そう			
6	1	213	2009/11/11	日めくり万葉集	河辺宮人(巻3・435)	みつみつし 久米の若子が い触れけむ 磯の草根の 枯れまく惜しも	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	213	みつみつし) 久米の若子が手を触れたという 磯の草の枯れるのが惜しいことだ			
6	1	214	2009/11/12	日めくり万葉集	大津皇子(巻3・416)	百伝ふ 磐余の池に 鳴く鴨を 今日のみ見てや 雲隠りなむ	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	214	(百伝ふ) 磐余(いわれ)の池に鳴いている鴨を 今日を限りと見て 私は雲に隠れ去って死んで行くのか			
6	1	215	2009/11/13	日めくり万葉集	大伯皇女(巻2・165)	うつそみの 人なる我や 明日よりは 二上山を 弟と我が見む	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	215	現世(うつしよ)の人であるわたしは 明日からは 二上山を 弟として見るのでしょうか			
6	1	216	2009/11/16	日めくり万葉集	大伴家持(巻17・4011)	鷹はしも あまたあれども 矢形尾の 我が大黒に 白塗の 鈴取り付けて 朝狩に 五百つ鳥立て 夕狩に 千鳥 踏み立て 追ふごとに 許すことなく 手放ちも をちもかやすき これをおきてまたはありがたし (抜粋)	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	216	タカはたくさんいるけれども、矢形尾(やかたお)の我が大黒に 白塗りの鈴を取り付けて 朝狩に五百羽の鳥を追い立て 夕狩に千羽の鳥を踏み立てて 追うたびに逃がすことなく 手から飛び放つのも 戻すのも自在で 大黒以外にこれほどのタカはおるまい (抜粋)			
6	1	217	2009/11/17	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より(巻11・2506)	言霊の 八十の衢に 夕占問ふ 占正に告る 妹相寄らむと	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	217	言霊のはたらく 多くの道の行き合うついで 夕占(ゆうけ)をした すると まさしく占に出た あの娘は私になびき寄るだろうと			
6	1	218	2009/11/18	日めくり万葉集	作者未詳(巻5・871)	遠つ人 松浦佐用姫 夫恋に 領巾振りしより 負へる山の名	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	218	これは 遠い人を「待つ」という名の松浦佐用姫(まつらさよひめ)が 夫を恋い慕って領布(ひれ)を振った時から名づけられた山の名だ			
6	1	219	2009/11/19	日めくり万葉集	大伴旅人(巻3・344)	あな醜 賢しらをすと 酒飲まぬ 人をよく見ば 猿にかも似る	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	219	ああみつともない 賢ぶって酒を飲まない人をよく見ると 猿に似ているかなあ			
6	1	220	2009/11/20	日めくり万葉集	大伴家持(巻20・4332)	ますらをの 鞆取り負ひて 出でて行けば 別れを惜しみ 嘆きけむ妻	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	220	雄々しい男が 鞆(ゆき)を手に取り背負い 旅に出ていくというときさぞ別れを惜しんで嘆いたであろう その妻は			
6	1	221	2009/11/23	日めくり万葉集	長田王(巻1・82)	うらさぶる 心さまねし ひさかたの 天のしぐれの 流れあふ見れば	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	221	わびしい思いが胸をみたく 無限の空をこめて時雨の降りつぐのを見ると			
6	1	222	2009/11/24	日めくり万葉集	作者未詳(巻7・1233)	娘子らが 織る機の上を ま櫛もち 搔上げ栲島 波の間ゆ見ゆ	可	0:05	(ch3)	
					口語訳	222	おとめたちが布を織る織機の上の糸を 櫛(くし)を使ってかき上げ「たく」(束ねる)という 栲島(たくしま)が波の間から見える			

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	223	2009/11/25	日めくり万葉集	遣唐使の母 (巻9・1791) 口語訳	223	旅人の 宿りせむ野に 霜降らば 我が子羽ぐくめ 天の鶴群 旅人が宿りする野に霜が降ったら 私の子を羽で包んでやっておくれ 空飛ぶ鶴の群よ	可	0:05	(ch3)
6	1	224	2009/11/26	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻1・48) 口語訳	224	東の 野にかざろひの 立つ見えて かへり見すれば 月傾きぬ 東の野に陽炎の立つのが見えて 振り返って見ると月は西に傾いている	可	0:05	(ch3)
6	1	225	2009/11/27	日めくり万葉集	湯荻王 (巻8・1550) 口語訳	225	秋萩の 散りのまがひに 呼び立てて 鳴くなる鹿の 声の遙けさ ハギの花があたりをかき暗くして散る中で 妻を呼び立て鳴く鹿の声が響いてくる その遙けさよ	可	0:05	(ch3)
6	1	226	2009/11/30	日めくり万葉集	聖武天皇 (巻6・1009) 口語訳	226	橘は 実さへ花さへ その葉さへ 枝に霜置けど いや常葉の木 橘(たちばな)は実も花もすばらしい それからその葉までも 枝に霜が降りても枯れ落ちない いや常緑の美しい木である	可	0:05	(ch3)
6	1	227	2009/12/1	日めくり万葉集	安倍女郎 (巻4・505) 口語訳	227	今更に 何をか思はむ うちなびき 心は君に 寄りにしものを いまさらに何を思うことなどありましようか うちなびいて わたしの心はあなたに寄り添ってしまったのですもの	可	0:05	(ch3)
6	1	228	2009/12/2	日めくり万葉集	山部赤人 (巻3・318) 口語訳	228	田子の浦ゆ うち出でて見れば ま白にそ 富士の高嶺に 雪は降りける 田子の浦を通り 眺めのよいところに出て望み見ると 真っ白に富士の高嶺に雪が降り積もっている	可	0:05	(ch3)
6	1	229	2009/12/3	日めくり万葉集	天武天皇 (巻2・103) 口語訳	229	我が里に 大雪降り 大原の 古りにし里に 降らまくは後 おまえはうらやましかるだろうな 私の里にはもう雪がたと降り積もってきている そなたの住む大原の古びた里に 雪が降るのはしばらく先になるのだろうからね	可	0:05	(ch3)
6	1	230	2009/12/4	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・345) 口語訳	230	価なき 宝といふとも 一坏の 濁れる酒に あにまさめやも 値のつけようがないほど貴い宝といっても 1杯の濁り酒にどうして勝ろうか	可	0:05	(ch3)
6	1	231	2009/12/7	日めくり万葉集	大伴家持 (巻18・4109) 口語訳	231	紅は うつろふものぞ 椽の なれにし衣に なほ及かめやも 鮮やかで目立つが紅花で染めたものは色がさめるものだぞ どんぐり(の煮汁)染めの着なれた衣に やはり及ぶだろうか かなわないものさ	可	0:05	(ch3)
6	1	232	2009/12/8	日めくり万葉集	高市黒人 (巻3・271) 口語訳	232	桜田へ 鶴鳴き渡る 年魚市湯 潮干にけらし 鶴鳴き渡る 桜田の方へ鶴が鳴きながら飛び渡って行く 年魚市湯(あゆちがた)では潮が引いたらし 鶴が鳴きながら飛び渡って行く	可	0:05	(ch3)
6	1	233	2009/12/9	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻2・131) 口語訳	233	玉藻なす 寄り寝し妹を 露霜の 置きてし来れば この道の 八十隈ごとに 万度 かへり見すれど いや遠に 里は離りぬ いや高に 山も越え来ぬ 夏草の 思ひしなえて 偲ふらむ 妹が門見む なびけこの山 (抜粋) 渚に寄せる美しい海藻(も)が揺れてからみあうように寄り添って寝たあの人を 露霜の置くように置きざりにして来たので この道のたくさんの曲がり角を 通るたびに 何度も何度も振り返って見るが そのうちだんだんあの人を 遠ざかってしまった だんだん高く山も越えて来てしまった いまごろ夏の日差しでしぼんでしまう草みたいにしよんぼりしてしまって わたしをしのんでいるだろうな ああ その愛しい人の門(かど)を見たいのだ なびいて低くなってしまえ この山よ (抜粋)	可	0:05	(ch3)
6	1	234	2009/12/10	日めくり万葉集	大伴家持 (巻19・4155) 口語訳	234	矢形尾の 真白の鷹を やどに据ゑ 掻き撫で見つつ 飼はくし良しも 矢形尾の真白なタカを家に置いて なでて眺めながら飼うのはよいものだ	可	0:05	(ch3)
6	1	235	2009/12/11	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻3・235) 口語訳	235	大君は 神にしませば 天雲の 雷の上に 慮りせるかも 天皇は神でいらっしゃるのだから 天雲の雷(いかづち)の上に庵(いおり)をしておられることだ	可	0:05	(ch3)
6	1	236	2009/12/14	日めくり万葉集	長意吉麻呂 (巻16・3824) 口語訳	236	さし鍋に 湯沸かせ子ども 櫛津の 檜橋より来む 狐に浴むさむ さし鍋に湯を沸かしておけ みなもの者 あのかげの檜橋(ひばし)を「こん」と渡ってくるキツネに ぶつかけてやろう	可	0:05	(ch3)
6	1	237	2009/12/15	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻1・48) 口語訳	237	東の 野にかざろひの 立つ見えて かへり見すれば 月傾きぬ 東の野にかげろひの立つのが見えて 振り返って見ると月は西に傾いている	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	238	2009/12/16	日めくり万葉集	大津皇子 (巻3・416) 口語訳	238	百伝ふ 磐余の池に 鳴く鴨を 今日のみ見てや 雲隠りなむ 磐余(いわれ)の池に鳴いているカモを今日を限りと見て 私は雲に隠れ去って死んで行くのか	可	0:05	(ch3)
6	1	239	2009/12/17	日めくり万葉集	大伴家持 (巻20・4516) 口語訳	239	新しき 年の初めの 初春の 今日降る雪の いや頻け吉事 新しい年の初めの正月元旦 立春も重なった 今日降るめでたい雪のように ますます重なれ 良いことよ	可	0:05	(ch3)
6	1	240	2009/12/18	日めくり万葉集	余明軍 (巻3・455) 口語訳	240	かくのみに ありけるものを 萩の花 咲きてありやと 問ひし君はも このようにはかなくなられるお命でしたのに「ハギの花は咲いているか」とお尋ねになった君は ああ	可	0:05	(ch3)
6	1		NHK教育テレビ「万葉集への招待」と「日めくり万葉集」の～セレクション～放送を録画、編集した。							
6	1	1	2009/2/1	日めくり万葉集	万葉集への招待	1	第一部「古代からのメッセージ」	可	0:44	(ch3)
6	1	2	2009/2/1	日めくり万葉集	万葉集への招待	2	第二部「万葉恋愛講座」	可	0:29	(ch3)
6	1	3	2009/2/1	日めくり万葉集	万葉集への招待	3	第三部「受け継がれ往く万葉集」	可	0:44	(ch3)
6	1	4	2009/8/10	日めくり万葉集	市原王 (巻6・1042) 口語訳	Sel 3	一つ松 幾代か経ぬる 吹く風の 声の清きは 年深みかも 一本松はどれほどの時を経てきたのだろうか こずえを吹く風の音が 清らかで澄み切っているのは深く歳月を重ねてきたからだろうか	可	0:05	(ch3)
6	1	5	2009/8/11	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・894) 口語訳	Sel 6	神代より 言ひ伝て来らく そらみつ 大和の国は 皇神の 厳しき国 言霊の 幸はふ国と 語り継ぎ 言ひ継がひけり (抜粋) 神代の昔から 言い伝えるには 大和の国は 神が威厳をもって守る国 言霊が幸いをもたらす国と 語り継ぎ言い継いできた	可	0:05	(ch3)
6	1	6	2009/8/12	日めくり万葉集	大伴家持 (巻18・4077) 口語訳	Sel 79	我が背子が 古き垣内の 桜花 いまだ含めり 一目見に来ね 親しい友よ 君が住んでいた屋敷の桜の花は まだつぼみだ 一目見においで	可	0:05	(ch3)
6	1	7	2009/8/13	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・338) 口語訳	Sel 98	験なき 物を思はずは 一坏の 濁れる酒を 飲むべくあるらし かいたない物思いをするよりは いっそ一杯のにごり酒を飲んだほうがいようだ	可	0:05	(ch3)
6	1	8	2009/8/14	日めくり万葉集	沙弥満誓 (巻3・351) 口語訳	Sel 11	世間を 何に喩へむ 朝開き 漕ぎ去にし船の 跡なきごとし 世の中を何にたとえたらいいだろうか それは 朝早く港をこぎ出て行った船の航跡が 何も残っていないようなものだ	可	0:05	(ch3)
6	1	9	2009/8/17	日めくり万葉集	作者未詳 (巻16・3807) 口語訳	Sel 138	安積香山 影さへ見ゆる 山の井の 浅き心を 我が思はなくに 安積香山(あさかやま) その影まで見えてしまう山の井の浅いように 浅い心を わたくしは抱いてなどいるものですか	可	0:05	(ch3)
6	1	10	2009/8/18	日めくり万葉集	笠金村歌集より (巻2・230)	Sel 101	高円山に 春野焼く 野火と見るまで 燃ゆる火を 何かと問へば玉梓の 道来る人の 泣く涙 こさめに降れば 白たへの 衣ひづちて (中略) 語れば 心ぞ痛き 天皇の 神の皇子の出でましの手火の光そ そこば照りたる (抜粋) 高円山(たかまとやま)で 春に野を焼く野火かと見間違ふほど 盛んに燃える火を「あれは何だ」と尋ねると 道に来る人は 涙を小雨のように降らせるので 白たへの着物はぐっしょり濡れて (中略) わけを話すと心が痛い あれは天子様のお子 尊い神のお子様のご葬列を照らす たいまつのが火が あんなにもたくさん照っているのです	可	0:05	(ch3)
6	1	11	2009/8/19	日めくり万葉集	余明軍 (巻3・394) 口語訳	Sel 60	標結ひて 我が定めてし 住吉の 浜の小松は 後も我が松 所有のしるしの標(しめ)を結って わたしのもものと定めておいた 住吉の浜の小松は 後々もわたしの松だ	可	0:05	(ch3)
6	1	12	2009/8/20	日めくり万葉集	作者未詳 (巻16・3874) 口語訳	Sel 15	射ゆ鹿を 認ぐ川辺の 和草の 身の若かへに さ寝し子らはも 弓で射られた鹿のあとを追って行く 川辺の柔らかい草 私は思い出す その草のように私が身も心も若かった頃抱いた乙女を	可	0:05	(ch3)
6	1	13	2009/8/21	日めくり万葉集	東歌・上野国歌 (巻14・3414) 口語訳	Sel 126	伊香保の やさかのみでに 立つ虹の 頭はるまでも さ寝をさ寝てば 伊香保の幾尺とも高さ知らずの井堰(いぜき)に現れる虹のようにはつきりと様子が露わになるくらいまで ずっとお前と寝ていられたらなあ	可	0:05	(ch3)
6	1	14	2009/12/21	日めくり万葉集	大伯皇女 (巻2・105) 口語訳	Sel 132	我が背子を 大和へ遣ると さ夜ふけて 暁露に 我が立ち濡れし 我が弟を大和へと送り返すと 夜は深く沈み あかつきの露に わたくしは立ちつくしたまま濡れてしまった	可	0:05	(ch3)
6	1	15	2009/12/22	日めくり万葉集	日下部三中 (巻20・4348)	Sel	たらちねの 母を別れて まこと我 旅の仮廬に 安く寝むかも	可	0:05	(ch3)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考
A	B	C					
6	1	15	2009/12/22	日めくり万葉集	NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。		
6	1	16	2009/12/23	日めくり万葉集	191	おっかさんの手元をお別れして 本当に俺は旅の仮小屋で 不安なく眠れるのだろうか	可 0:05 (ch3)
6	1	17	2009/12/24	日めくり万葉集	214	百伝ふ 磐余の池に 鳴く鴨を 今日のみ見てや 雲隠りなむ (百伝ふ)磐余(いわれ)の池に鳴いている鴨を 今日を限りと見て 私は雲に隠れ去って死んでいくのか	可 0:05 (ch3)
6	1	18	2009/12/25	日めくり万葉集	223	遣唐使の母 (巻9・1791) 旅人の 宿りせむ野に 霜降らば 我が子羽ぐくめ 天の鶴群 旅人が宿りする野に霜が降ったら 私の子を羽で包んでやっておくれ 空飛ぶ鶴の群よ	可 0:05 (ch3)
6	1	19	2009/12/28	日めくり万葉集	172	山上憶良 (巻5・803) 銀も 金も玉も なにせむに 優れる宝 子に及かめやも 銀も金も玉も どうして優れた宝は子に及ぼうか 我が子以上の宝はないのだ	可 0:05 (ch3)
6	1	20	2009/12/29	日めくり万葉集	188	遠江国の防人 生壬部足国 (巻20・4326) 父母が 殿の後の ももよ草 百代いでませ 我が来るまで 父母が住む屋敷の裏手に生える百代草 その名にあやかり 百代御長寿にていらしてください 私が戻るその日まで	可 0:05 (ch3)
6	1	21	2009/12/30	日めくり万葉集	46	父母が 頭掻き撫で 幸くあれて 言ひし言葉ぜ 忘れかねつる 別れの時に父と母とが わたしの頭を両手で撫でまわしながら「幸くあれ」くれぐれも無事で過ごせーと言ったことばが 脳裏から離れない	可 0:05 (ch3)
6	1	22	2010/1/3	日めくり万葉集	64	瓜食めば 子ども思ほゆ 粟食めば まして偲はゆ いづくより 来りしものそ まなかひに もとなかかりて 安眠しなさぬ 瓜を食べると子どもらが思い出される 粟を食べるとなおさら思われる どういう宿縁でどこから私のもとに生まれて来たのか 眼の前にやたらにちらついて 安眠させてくれない	可 0:05 (ch3)
6	1	23	2010/1/3	日めくり万葉集	224	額田王(巻1・8) 熟田津に 舟乗りせむと 月待てば 潮もかなひぬ 今は漕ぎ出でな 熟田津(にきたつ)で 船出しようとして月の出を待っていると 月も出 幸い潮も満ちて来た さあ 今こそこぎ出そう	可 0:05 (ch3)
6	1	24	2010/1/3	日めくり万葉集	212	東の 野にかぎろひの 立つ見えて かへり見すれば 月傾きぬ 東の野に陽炎の立つのが見えて 振り返って見ると月は西に傾いている	可 0:05 (ch3)
6	1	25	2010/1/3	日めくり万葉集	193	恋ひ恋ひて 逢へる時だに 愛しき 言尽くしてよ 長くと思はば 恋して恋して やっと会えたときくらいは 愛らしいことばをいっぱい言いつくしてください 私といつまでもお思いでしたら	可 0:05 (ch3)
6	1	26	2010/1/3	日めくり万葉集	71	石走る 垂水の上の さわらびの 萌え出づる春に なりにけるかも 岩を叩き水しぶき散る清い瀧のほとりの蕨が 芽を出し始める春になったんだ	可 0:05 (ch3)
6	1	241	2011/3/28	日めくり万葉集	NHK教育テレビ「日めくり万葉集(新シリーズ)」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。		
6	1	242	2011/3/29	日めくり万葉集	241	あをによし 奈良の都は 咲く花の にほふがごとく 今盛りなり 奈良の都は 咲く花が爛漫と色美しように 今がまっ盛りです	否 0:05 (ch3)別DVD-RAM
6	1	243	2011/3/30	日めくり万葉集	242	足柄の 刀比の河内に 出づる湯の よにもたらに 児ろが言はなくに 足柄山の土肥の流域のいで湯のように いかにも こころが揺れたように あの娘(こ)が言ったわけでもないのにな	否 0:05 (ch3)別DVD-RAM
6	1	244	2011/3/31	日めくり万葉集	243	かくばかり 恋ひつつあらずは 高山の 岩根しまきて 死なましものを こんなに恋して恋してばかりいないで いっそのこと 険しい山の岩の根もとを枕に 死んでしまったほうがよいのに	否 0:05 (ch3)別DVD-RAM
6	1	245	2011/4/1	日めくり万葉集	244	面形の 忘るさあらば あづきなく 男じものや 恋ひつつ居らむ あの娘の面差しを忘れる時があったら 情けなくも 男たるものがこんなに恋しがってなんかいようか	否 0:05 (ch3)別DVD-RAM
6	1	246	2011/4/1	日めくり万葉集	245	あをによし 奈良の都に たなびける 天の白雲 見れど飽かぬかも 奈良の都にたなびいている天の白雲は 見ても見飽きることはない	否 0:05 (ch3)別DVD-RAM
6	1	246	録画モレ	日めくり万葉集	246	高橋虫麻呂歌集 (巻3・319) なまよみの 甲斐の国 うち寄する 駿河の国と こちごちの 国のみ中ゆ 出で立てる 富士の高嶺は 天雲も い行きはばかり 飛ぶ鳥も 飛びも上らず 燃ゆる火を 雪もて消ち 降る雪を 火もて消ちつつ 言ひも得ず 名付けも知らず ぐすくも います神かも (抜粋)	否 0:05 (D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分			代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考
A	B	C							
6	1	240	2011/4/4	日めくり万葉集	「NHK教育テレビ」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。	240			
6	1	247	2011/4/4	日めくり万葉集	口語訳	247	甲斐の国と駿河の国との 両方の国の真ん中からそびえ立っている 富士の高嶺は 天雲(あまくも)も進むのをためらい 飛ぶ鳥も飛び上がらない 燃える火を雪で消し 降る雪を火で消しつつ 言いようも名付けようもないほど 靈妙にまします神である (抜粋)	0:05	(D021)
6	1	247	2011/4/5	日めくり万葉集	作者未詳(巻10・1885) 口語訳	247	物皆は 新しきよし ただしくも 人は古りにし 宜しかるべし 物はみんな新しいのがよい ただし 人間だけは古くなったほうがよいだろう	0:05	(D021)
6	1	248	2011/4/6	日めくり万葉集	橋文成(巻6・1014) 口語訳	248	一昨日も 昨日も 今日も 見つれども 明日さへ見まく 欲しき君かも 一昨日も 昨日も そして 今日もお会いしたのに また明日までも会いたいと思う なんとも魅力的なあなただ	0:05	(D021)
6	1	249	2011/4/7	日めくり万葉集	柿本人麻呂(巻1・37) 口語訳	249	見れど飽かぬ 吉野の川の 常滑の 絶ゆることなく またかへり見む 見ても見飽きることのない吉野の川の常滑のように 絶えることなく またやってきて この滝の都を見よう	0:05	(D021)
6	1	250	2011/4/8	日めくり万葉集 シリーズ 「描かれた万葉歌」	大伴家持(巻19・4292) 口語訳	250	うらうらに 照れる春日に ひばり上がり 心悲しも ひとりし思へば うららかに照っている春の日に ひばりが青空に舞い上がりー 心は悲しいことだ 独りで物思いをしていると	0:05	(D021)
6	1	251	2011/4/11	日めくり万葉集	麻統王(巻1・24) 口語訳	251	うつせみの 命を惜しみ 波に濡れ 伊良真の島の 玉藻刈り食む この世のはかない命惜しさに 波に濡れながら伊良真(いらご)の島の 玉藻を刈って食べているのです	0:05	(D021)
6	1	252	2011/4/12	日めくり万葉集	笠金村(巻8・1455) 口語訳	252	たまきはる 命に向かひ 恋ひむゆは 君がみ舟の 梶柄にもが 限りある命を極めて 心の中で恋慕っているよりは あなたの お船の 櫂の柄になりたい	0:05	(D021)
6	1	253	2011/4/13	日めくり万葉集	大伴家持(巻19・4139) 口語訳	253	春の園 紅にほふ 桃の花 下照る道に 出で立つ娘よ 春の園の紅色に美しく咲いている桃の花の 樹の下まで照り輝く道に出でたたずむ乙女よ	0:05	(D021)
6	1	254	2011/4/14	日めくり万葉集	作者未詳(古歌集) (巻11・2364) 口語訳	254	玉垂の 小簾のすけきに 入り通ひ来ね たらちねの 母が問はさば 風と申さむ 玉を垂らした簾の隙間から入ってかよって来てください お母さんが尋ねたら「風よ」と申しましょう	0:05	(D021)
6	1	255	2011/4/15	日めくり万葉集 シリーズ 「作家たちの万葉集」	大伴坂上郎女(巻18・4080) 口語訳	255	常人の 恋ふといふよりは 余りにて 我は死ぬべく なりにたらずや 世の人がいう 恋する想いを越えて もう 私は死にそうになっているのではなからうか	0:05	(D021)
6	1	256	2011/4/18	日めくり万葉集	作者未詳(巻7・1415) 口語訳	256	玉梓の 妹は玉かも あしひきの 清き山辺に 撒けば散りぬる (玉梓の)妻は玉なのだろうか (あしひきの)清らかな山辺に お骨(こつ)をまいたら散らばってしまった	0:05	(D021)
6	1	257	2011/4/19	日めくり万葉集	額田王(巻2・151) 口語訳	257	かからむと かねて知りせば 大御舟 泊てし泊まりに 標結はましを こうなるであろうとあらかじめ知っていたなら 大君の御船が停泊した港に 標縄を張りめぐらせておけばよかつたのにな	0:05	(D021)
6	1	258	2011/4/20	日めくり万葉集	作者未詳(古歌集) (巻7・1263) 口語訳	258	暁と 夜鳥鳴けど この山上の 木末が上は いまだ静けし もう夜明けだと夜鳥は鳴くけれど この山の木々の梢のあたりはまだ静かです	0:05	(D021)
6	1	259	2011/4/21	日めくり万葉集	東歌(巻14・3466) 口語訳	259	まかなしむ 寝れば言に出 さ寝なへば 心の緒ろに 乗りてかなしも あまりの可愛さに あの娘と寝ると 噂に立つ 寝ないしていると 心の緒に乗りかかって なんともせつなくてせつなくて	0:05	(D021)
6	1	260	2011/4/22	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉料理教室」	葛城王(巻20・4455) 口語訳	260	あかねさす 昼は田給びて ぬばたまの 夜の暇に 摘める芹これ あかるい昼のうちは 田を分け与え 暗い夜になって やっと時間をみつめて摘み取った芹が これです	0:05	(D021)
6	1	261	2011/4/25	日めくり万葉集	物部古麻呂 遠江国防人 (巻20・4327)	261	我が妻も 画に描き取らむ 暇もが 旅行く我は 見つつ偲はむ	0:05	(D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分			代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考		
A	B	C									
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。								
0	1	201	2011/4/25	日めくり万葉集	口語訳	201	わが妻を絵に描き写す時間がほしい そうすれば 旅に行く俺は 妻の絵をながめて なつかしさにふけることができるのに	0:05	(D021)		
6	1	262	2011/4/26	日めくり万葉集	高橋虫麻呂 (巻9・1740) 口語訳	262	この箱を 開いて見れば ものごと 家はあらむと 玉櫛笥 少し開くに 白雲の 箱より出でて 常世辺に たなびきぬれば 立ち走り 叫び袖振り 臥いまろび 不足りつつ たちまちに 心消失せぬ 若かりし 肌もしわみぬ 黒かりし 髪も白けぬ ゆなゆなは 息さへ絶えて 後つひに 命死にける (抜粋) 「この箱を開いて見たら もののように家はあるだろう」と 美しい手箱を 少し開くと 白雲が箱から出て 常世の国の方へたなびいて行ったので 飛び上がり 叫び 袖を振り 転げまわり 地団駄を踏みながら たちまちに正気を失ってしまった 若かった肌もしわが寄ってしまった 黒かった髪も白くなってしまった その後は呼吸も止まって あげくの果てには死んでしまったという (抜粋)	0:05	(D021)		
6	1	263	2011/4/27	日めくり万葉集	中臣宅守 (巻15・3760) 口語訳	263	さ寝る夜は 多くあれども 物思はず 安く寝る夜は さねなきものを 寝る夜は多いけれども 物思いをしないで安らかに寝る夜は 少しもないものだ	0:05	(D021)		
6	1	264	2011/4/28	日めくり万葉集	笠女郎 (巻4・602) 口語訳	264	夕されば 物思ひ増さる 見し人の 言問ふ姿 面影にして 夕暮れになると物思ひがつのります お逢いたあの方が 愛のこぼさをささやく姿が幻に現れて	0:05	(D021)		
6	1	265	2011/4/29	日めくり万葉集 シリーズ「万葉玉手箱」	作者未詳 (巻7・1142) 口語訳	265	命を 幸く良けむと 石走る 垂水の水を むすびて飲みつ わが命が幸福で健康であるようにと 岩を激しく叩きながら おちてゆく滝の水を両手ですくって飲んだよ	0:05	(D021)		
6	1	266	2011/5/2	日めくり万葉集 シリーズ「万葉・四季の歌」	作者未詳 (巻10・1939) 口語訳	266	ほととぎす 汝が初声は 我にこせ 五月の玉に 交へて貫かむ ほととぎすよ おまえの鳴く初声を私におくれ そうしたら五月(さつき)の玉に交えて通そう	0:05	(D021)		
6	1	267	2011/5/3	日めくり万葉集	大伴家持 (巻4・741) 口語訳	267	夢の逢ひは 苦しかりけり おどろきて 掻き探れども 手にも触れねば 夢の中で抱き合うのは苦しいことよ 目覚めて掻き探っても あなたを手にさえ触れられないのだから	0:05	(D021)		
6	1	268	2011/5/4	日めくり万葉集	作者未詳 (巻8・1430) 口語訳	268	去年の春 逢へりし君に 恋ひにてし 桜の花は 迎へ来らしも 去年の春 会ったあなたに恋したからこそ 桜の花はこんなに素敵にほほえんで あなたをお迎えにきたらしい	0:05	(D021)		
6	1	269	2011/5/5	日めくり万葉集	調使首 (巻13・3341) 口語訳	269	家人の 待つらむものをつれもなき 荒磯をまきて 伏せる君かも 家の人が今頃は待っているだろうに 何のゆかりもない土地の荒磯を枕にして寝ている君よ	0:05	(D021)		
6	1	270	2011/5/6	日めくり万葉集 シリーズ「平城京物語」	門部王 (巻3・310) 口語訳	270	東の 市の植木の 木垂るまで 逢はず久しみ うべ恋ひにけり 東の市の並木の枝が垂れ下がるようになるまで 久しくあなたに逢わないので なるほど恋しくなるのもっともだ	0:05	(D021)		
6	1	271	2011/5/9	日めくり万葉集	作者未詳 (巻12・3175) 口語訳	271	若の浦に 袖さへ濡れて 忘れ貝 拾へど妹は 忘れえなくに 若の浦で袖まで濡らして忘れ貝を拾って忘れようとしてみたけれど どうしてもあの娘のことは忘れられない	0:05	(D021)		
6	1	272	2011/5/10	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・349) 口語訳	272	生ける人 つひにも死ぬる ものあれば 今在る間は 楽しくをあらな 生きている人はいずれは死ぬものなのだから この世にいる間は楽しく過ごしたいものだ	0:05	(D021)		
6	1	273	2011/5/11	日めくり万葉集	大伯皇女 (巻2・166) 口語訳	273	磯の上に 生ふるあしびを 手折らめど 見すべき君が ありといはなくに 岩の上に生えている馬酔木(あしび)を折りとってもみようが お見せしようとする方が生きているとは誰もいわないので	0:05	(D021)		
6	1	274	2011/5/12	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻3・255) 口語訳	274	天さがる 鄙の長道ゆ 恋ひ来れば 明石の門より 大和島見ゆ 地方からの長い道のりを 恋しく思いながらやって来ると 明石の海峡から大和の山々が見える	0:05	(D021)		
6	1	275	2011/5/13	日めくり万葉集 シリーズ「描かれた万葉歌」	額田王 (巻4・488) 口語訳	275	君待つと 我が恋ひ居れば 我がやどの 簾動かし 秋の風吹く 大君のお出ましを心待ちにして わたしが恋の思いに胸をときめかせていますと わが家の戸口の簾を動かして 秋の風が吹いてくる	0:05	(D021)		
6	1	276	2011/5/16	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻1・40) 口語訳	276	あみの浦に 舟乗りすらむ 娘子らが 玉裳の裾に 潮満つらむか あみの浦で船に乗っているであろう乙女たちの 美しい裳の裾に 今ごろは潮が満ちていることだろうか	0:05	(D021)		
6	1	277	2011/5/17	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・893) 口語訳	277	世間を 憂しとやさしと 思へども 飛び立ちかねつ 鳥にしあらねば	0:05	(D021)		

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考	
A	B	C						
6	1	277	2011/5/17	日めくり万葉集	277	この世の中を 厭わしいところ恥ずかしいところと思うけれど 飛び立ち去ることもできない 鳥ではないので	否f	0:05 (D021)
6	1	278	2011/5/18	日めくり万葉集	278	落ち激ち 流るる水の 岩に触れ 淀める淀に 月の影見ゆ たぎり落ちて流れる水が岩に触れて 流れがとどこおっている淀みに 月の影が見える	否f	0:05 (D021)
6	1	279	2011/5/19	日めくり万葉集	279	香具山は 畝傍ををしと 耳梨と 相争ひき 神代より かくにあるらし 古も 然にあれこそ うつせみも 妻を争ふらしき 香具山は畝傍山を取られるのが惜しいと 耳梨山と争いあった 神代からこのようであるらしい 昔もそうだったからこそ 今の世の人も妻を取り合って争うのであるらしい	否f	0:05 (D021)
6	1	280	2011/5/20	日めくり万葉集 シリーズ 「作家たちの万葉集」	280	蓮葉は かくこそあるもの 意吉麻呂が 家なるものは 芋の葉にあらし 蓮の葉とは かくも立派なものであるのか はて だとすると意吉麻呂の家に生えているのは どうやら芋の葉っぱだな	否f	0:05 (D021)
6	1	281	2011/5/23	日めくり万葉集	281	移り行く 時見るとに 心痛く 昔の人し 思ほゆるかも うつり変わる季節を目にするたびに 胸が痛むほど なつかしい昔の方たちのことが思い出されてならない	否f	0:05 (D021)
6	1	282	2011/5/24	日めくり万葉集	282	難波人 葦火焚く屋の すしてあれど 己が妻こそ 常めづらしき 難波人が葦火を焚く家のように煤けてはいるが 我が妻はいつもかわい	否f	0:05 (D021)
6	1	283	2011/5/25	日めくり万葉集	283	秋さらば 見つつ思へと 妹が植ゑし やどのなでし 咲きにけるかも 秋になったら 見て私を偲んでくださいと 妻が植えた庭のなでしこの花が咲いたよ	否f	0:05 (D021)
6	1	284	2011/5/26	日めくり万葉集	284	君なくは なぞ身装はむ くしげなる 黄楊の小櫛も 取らむとも思はず あなたがいなかったら どうして身を装ったりしましょうか 櫛箱にある黄楊の小さな櫛だって 手にしようとも思いません	否f	0:05 (D021)
6	1	285	2011/5/27	日めくり万葉集 シリーズ「万葉玉手箱」	285	はね纏 今する妹が うら若み 笑みみ怒りみ 付けし紐解く 羽飾りのついた纏をいま頭に巻いている娘は 初々しく世馴れないものだから 笑ってみたりすねて怒ってみたりして つけた紐をほどいてゆく	否f	0:05 (D021)
6	1	286	2011/5/30	日めくり万葉集	286	うちひさす 宮道を人は 満ち行けど 我が思ふ君は ただひとりのみ 都大路を 人はいっぱい行き来しているけれど 私が思いを寄せるお方は ただ一人だけ	否f	0:05 (D021)
6	1	287	2011/5/31	日めくり万葉集	287	我が背子は 物な思ひそ 事しあらば 火にも水にも 我がなげなくに あなた そんなに独りで心配しないで 何かあったなら火にも水にも飛び込む 私というものが一緒にいるじゃありませんか	否f	0:05 (D021)
6	1	288	2011/6/1	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉・四季の歌」	288	山高み 川とほろし 野を広み 草こそ繁き 鮎走る 夏の盛りと(抜粋) 山は高く 川はゆったりと流れる 野原はひろびろと広がり 草も生い茂っている 鮎が勢いよく泳ぎ跳ねる 夏 まっさかりの時期だと	否f	0:05 (D021)
6	1	289	2011/6/2	日めくり万葉集	289	なかなか 人とあらずは 桑子にも ならましものを 玉の緒ばかり なまじっか人間なんかでないで 桑の葉を無心に食べる蚕にでもなりたい はかない命だとしても	否f	0:05 (D021)
6	1	290	2011/6/3	日めくり万葉集 シリーズ「平城京物語」	290	佐保山に たなびく霞 見るとに 妹を思ひ出で 泣かぬ日はなし 佐保山にかかっている霞を見るたびに妻を思い出して泣かぬ日はなし	否f	0:05 (D021)
6	1	291	2011/6/6	日めくり万葉集	291	ただ一夜 隔てしからに あらたまの 月か経ぬると 心惑ひぬ ただの一夜逢わなかっただけに 一月も過ぎてしまったかのように 心が乱れてしまいました	否f	0:05 (D021)
6	1	292	2011/6/7	日めくり万葉集	292	時々の 花は咲けども なにすれそ 母とふ花の 咲き出来ずけむ 四季折々の花は咲くのに なぜ 母 という名前の花が咲きだしてこなかったのだろう ああ母さまに会いたいことだ	否f	0:05 (D021)
6	1	293	2011/6/8	日めくり万葉集	293	富人の 家の子どもの 着る身なみ 腐し捨つらむ 絁綿らはも 裕福な家の子たちが着余して 持ち腐れにして棄てているという 絹や真綿の着物は ああ	否f	0:05 (D021)
6	1	294	2011/6/9	日めくり万葉集	294	朝寝髪 我は梳らじ うるほしき 君が手枕 触れてしものを	否f	0:05 (D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1	294	2011/6/9	日めくり万葉集	口語訳	294	朝の寝乱れ髪を私は櫛で梳いたりいたしません いとしいあなたの手枕が触れた髪ですもの	否f	0:05	(D021)
6	1	295	2011/6/10	日めくり万葉集 シリーズ 「作家たちの万葉集」	広河女王 (巻4・694) 口語訳	295	恋草を 力車に七車 積みて恋ふらく 我が心から 恋草を荷車七台に積んで引くような苦しい恋をしているのは そういえば自分の心から求めたことでした	否f	0:05	(D021)
6	1	296	2011/6/13	日めくり万葉集	大伴家持 (巻8・1630) 口語訳	296	高円の 野辺のかほ花 面影に みえつつ妹は 忘れかねつも 高円の野のあたりに咲くかお花よ それを見ると幻にあなたの顔がちらついて 片時も忘れられないのだ	否f	0:05	(D021)
6	1	297	2011/6/14	日めくり万葉集	田口益人 (巻3・296) 口語訳	297	廬原の 清見の崎の 三保の浦の ゆたけき見つつ 物思ひもなし 廬原(いははら)の清見の崎の三保の浦の ゆったりとした海を見ていると 何の物思ひもない	否f	0:05	(D021)
6	1	298	2011/6/15	日めくり万葉集	紀女郎 (巻8・1461) 口語訳	298	昼は咲き 夜は恋ひ寝る 合歓木の花 君のみ見めや 戯奴さへに見よ 昼は咲き 夜は恋して寝る合歓木の花よ 主君の我だけが見るものではない 下僕のそなたも一緒に見なさいな	否f	0:05	(D021)
6	1	299	2011/6/16	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻3・266) 口語訳	299	近江の海 夕波千鳥 汝が鳴けば 心もしのに 古思ほゆ 近江の海の夕波千鳥よ おまえが鳴くと心もしみじみと昔のことが思われる	否f	0:05	(D021)
6	1	300	2011/6/17	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉料理教室」	東歌 (巻14・3537) 口語訳	300	くへ越しに 麦食む小馬の はつはつに 相見し児らし あやにかなしも 柵ごしに首をのばして麦を食う仔馬の口が少ししか届かないように わずかに結ばれたあの娘が妙にかわいいことだ	否f	0:05	(D021)
6	1	301	2011/6/20	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より (巻7・1087) 口語訳	301	痛足川 川波立ちぬ 巻向の 弓月が岳に 雲居立てるらし 穴師川に川波が立ってきた 巻向の弓月が岳には雲が立ちのぼっているようだ	否f	0:05	(D021)
6	1	302	2011/6/21	日めくり万葉集	高橋虫麻呂 (巻9・1743) 口語訳	302	大橋の 頭に家あらば まかなしく ひとり行く児に 宿貸さましを 大橋のたもとに家があったら かなしそうに一人で行くあの娘に 宿を貸してあげようものを	否f	0:05	(D021)
6	1	303	2011/6/22	日めくり万葉集	遣新羅使人の妻 (巻15・3580) 口語訳	303	君が行く 海辺の宿に 霧立たば 我が立ち嘆く 息と知りませ あなたが行く海辺の宿に霧が立ったら 私が立ち嘆いている息だと思ってください	否f	0:05	(D021)
6	1	304	2011/6/23	日めくり万葉集	山部赤人 (巻3・317) 口語訳	304	天地の 分れし時ゆ 神さびて 高く貴き 駿河なる 富士の高嶺を 天の原 振り放け見れば 渡る日の 影も隠らひ 照る月の 光も見えず 白雲も い行きはばかり 時じくそ 雪は降りける 語り継ぎ 言ひ継ぎ行かむ 富士の高嶺は 天と地が別れた時から神々しくて高く貴い駿河の国にある富士の高嶺を 天空に振り仰いでみると 空を渡る太陽の姿も隠れ 照る月の光も見えない 白雲も進みかね 時となくいつも雪は降りつもっている 語り伝え言ひ継いで ゆこう この富士の高嶺は	否f	0:05	(D021)
6	1	305	2011/6/24	日めくり万葉集 シリーズ「万葉玉手箱」	大伴家持 (巻8・1627) 口語訳	305	我がやどの 時じき藤の めづらしく 今も見てしか 妹が笑まひを わが庭の季節外れに咲いた藤の花 めづらしくいとして それで 愛らしいあなたの笑顔が今すぐに見たくなりました	否f	0:05	(D021)
6	1	306	2011/6/27	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・331) 口語訳	306	我が盛り またをちめやも ほとほとに 奈良の都を 見ずかなりなむ わたしの若い盛りの頃はまた戻って来るだろうか そんなことはあるまい どうやら奈良の都を見ずに終わってしまうのではなからうか	否f	0:05	(D021)
6	1	307	2011/6/28	日めくり万葉集	大伴家持 (巻8・1463) 口語訳	307	我妹子が 形見の合歓木は 花のみに 咲きてけだしく 実にならじかも あなたの身代りにくださったあの合歓木は 花だけ咲いて ひょっとしたら実を結ばないのではありませんか	否f	0:05	(D021)
6	1	308	2011/6/29	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・349) 口語訳	308	生ける人 つひにも死ぬる ものにあれば 今在る間は 楽しくをあらな 生きている人はいずれ最後には死ぬものであるから 今この世にある間は楽しく生きていよう	否f	0:05	(D021)
6	1	309	2011/6/30	日めくり万葉集	山上億良 (巻5・899) 口語訳	309	すべもなく 苦しければ 出で走り 去ななと思へど 此らに障りぬ どうしようもなく苦しいので この世から逃げ出して去ろうと思うけれど この子たちに妨げられて去ることができない	否f	0:05	(D021)
6	1	310	2011/7/1	日めくり万葉集 シリーズ「平城京物語」	中臣宅守 (巻15・3728) 口語訳	310	あをによし 奈良の大路は 行き良けど この山道は 行き悪しかりけり 奈良の大路は行きやすいけれど この山道はなんと行きづらいことよ	否f	0:05	(D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	311	2011/7/4	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉・四季の歌」	柿本人麻呂歌集より (巻10・2013)	311	天の川 水陰草の 秋風に なびかふ見れば 時は来にけり	否f	0:05	(D021)
					口語訳		天の川 水のほとりの草が秋風になびいているのを見ると ああ七夕の季節がやってきたことだ			
6	1	312	2011/7/5	日めくり万葉集	作者未詳 (巻7・1295)	312	春日なる 三笠の山に 月の舟出づ みやびをの 飲む酒坏に 影に見えつつ	否f	0:05	(D021)
					口語訳		春日にある三笠の山に月の船が出た 風流な男たちが飲む盃にその影を映して			
6	1	313	2011/7/6	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より (巻11・2353)	313	長谷の 斎槻が下に 我が隠せる妻 あかねさし 照れる月夜に 人見てむかも	否f	0:05	(D021)
					口語訳		泊瀬(はつせ)の神聖な槻(つき)の木のもとに私が隠した妻 あかあかと照っている月夜に人が見はしないだろうか			
6	1	314	2011/7/7	日めくり万葉集	笠女郎 (巻4・608)	314	相思はぬ 人を思ふは 大寺の 餓鬼の後に 額つくごとし	否f	0:05	(D021)
					口語訳		思ってもくれない人を思うなんて 大寺の餓鬼の後に廻って額を地につけて拝むようなものです			
6	1	315	2011/7/8	日めくり万葉集 シリーズ 「描かれた万葉歌」	中皇命 (巻1・4)	315	たまきはる 宇智の大野に 馬並めて 朝踏ますらむ その草深野	否f	0:05	(D021)
					口語訳		宇智の大野に馬を並べて この朝 踏み立てていらっしやるであろう その草深い野よ			
6	1	316	2011/7/11	日めくり万葉集	湯原王 (巻4・670)	316	月読の 光に來ませ あしひきの 山きへなりて 遠からなくに	否f	0:05	(D021)
					口語訳		月の神が照らす光の中をお越してください 山を隔てて遠いというほどではないのですから			
6	1	317	2011/7/12	日めくり万葉集	作者未詳 (巻11・2627)	317	はね縷 今する妹が うら若み 笑み怒りみ 付けし紐解く	否f	0:05	(D021)
					口語訳		はねかづらを今しているあの娘がまだ若いので 微笑んでみたり怒ってみたりして 着物の付け紐を解くことだ			
6	1	318	2011/7/13	日めくり万葉集	額田王 (巻1・18)	318	三輪山を 然も隠すか 雲だにも 心あらなも 隠さふべしや	否f	0:05	(D021)
					口語訳		三輪山をなんでそんなにも隠すのか せめて雲だけでも思いやりがあつてほしい 隠したりしてよいものか			
6	1	319	2011/7/14	日めくり万葉集	能登国の歌(作者未詳) (巻16・3879)	319	梯立の 熊来酒屋に まぬらる奴 わし さすひ立て 率て來なましを まぬらる奴 わし	否f	0:05	(D021)
					口語訳		はしたての熊来の酒倉で飲んだくれて怒鳴られている奴 わっし 誘って立たして連れて来てやりたいんだがな 怒鳴られている奴 わっし			
6	1	320	2011/7/15	日めくり万葉集 シリーズ 「作家たちの万葉集」	日置長枝娘子 (巻8・1564)	320	秋付けば 尾花が上に置く露の 消ぬべくも我は 思ほゆるかも	否f	0:05	(D021)
					口語訳		秋めいてくると すすきの穂に降りる露のように 消え果てそうにも わたしは思えるのです			
6	1	321	2011/7/18	日めくり万葉集	大伴家持 (巻8・1494)	321	夏山の 木末の繁に ほととぎす 鳴きとよむなる 声の遙けさ	否f	0:05	(D021)
					口語訳		夏山の梢の茂みでほととぎすが鳴き声をひびかせている その声のなんとも遙かなことよ			
6	1	322	2011/7/19	日めくり万葉集	作者未詳 (巻11・2648)	322	かにかくに 物は思はじ 飛驒人の 打つ墨繩の ただ一道に	否f	0:05	(D021)
					口語訳		あれこれと思ひ悩んだりはずまい 飛驒の工匠が打つ墨繩の線の様に ただ一筋にあなたを思おう			
6	1	323	2011/7/20	日めくり万葉集	大伴坂上郎女 (巻4・724)	323	朝髪を 思ひ乱れて かくばかり なねが恋ふれそ 夢に見えける	否f	0:05	(D021)
					口語訳		寝起きの乱れ髪みたいに気持ちが乱れて こんなにあなたが恋しがるから わたしの夢にあなたが見えたのだから			
6	1	324	2011/7/21	日めくり万葉集	大伴家持 (巻4・741)	324	夢の逢ひは 苦しかりけり おどろきて 掻き探れども 手にも触れねば	否f	0:05	(D021)
					口語訳		夢の中で抱き合うのは くるしいことよ 目覚めて掻き探っても あなたを 手にさえ触れられないのだから			
6	1	325	2011/7/22	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉料理教室」	大伴家持 (巻16・3853)	325	石麻呂に 我物申す 夏瘦せに 良しといふものそ 鰻捕り喫	否f	0:05	(D021)
					口語訳		石麻呂殿に私が物を申そう 夏やせに効果てき面ということですよ うなぎを取って召し上がりなされ			
6	1	326	2011/7/25	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・348)	326	この世にし 楽しくあらば 來む世には 虫に鳥にも 我はなりなむ	否f	0:05	(D021)
					口語訳		この世でさえ楽しかったら 来世では 虫にでも鳥にでもわたしはなってしまうおう			
6	1	327	2011/7/26	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻3・264)	327	ものふの 八十字治川の 網代木に いさよふ波の 行くへ知らずも	否f	0:05	(D021)
					口語訳		ものふの八十字治川の網代木にさえぎられて いざよふ波の行方が分らないことよ			
6	1	328	2011/7/27	日めくり万葉集	遣新羅使人 (巻15・3624)	328	我のみや 夜舟は漕ぐと 思へれば 沖辺の方に 梶の音すなり	否f	0:05	(D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考	
A	B	C							
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。					
6	1	328	2011/7/27	日めくり万葉集	328	我々だけが夜船をこいでいると思っていたら 沖のほうでも梶の音がするのだ	0:05	(D021)	
6	1	329	2011/7/28	日めくり万葉集	329	作者未詳 (巻11・2640) 口語訳 梓弓 引きみ緩へみ 来ずは来ず 来ば来そをなぞ 来ずは来ばそを	0:05	(D021)	
6	1	330	2011/7/29	日めくり万葉集 シリーズ「万葉玉手箱」	330	作者未詳 (巻7・1216) 口語訳 潮満たば いかにせむとか 海神の 神が手渡る 海人娘子ども	0:05	(D021)	
6	1	331	2011/8/1	日めくり万葉集 シリーズ「万葉・四季の歌」	331	県犬養三千代 (巻19・4235) 口語訳 天雲を ほろに踏みあだし 鳴る神も 今日にまさりて 恐れめやも	0:05	(D021)	
6	1	332	2011/8/2	日めくり万葉集	332	作者未詳 (巻7・1176) 口語訳 夏麻引く 海上湯の 沖つ渚に 鳥はすだけど 君は音もせず	0:05	(D021)	
6	1	333	2011/8/3	日めくり万葉集	333	三方沙弥 (巻2・123) 口語訳 たけばぬれ たかねば長き 妹が髪 このころ見ぬに 挿さ入れつらむか	0:05	(D021)	
6	1	334	2011/8/4	日めくり万葉集	334	神社老麻呂 (巻6・977) 口語訳 直越えの この道にてし おし照るや 難波の海と 名付けけらしも	0:05	(D021)	
6	1	335	2011/8/5	日めくり万葉集 シリーズ「平城京物語」	335	作者未詳 (巻16・3858) 口語訳 このころの 我が恋力 記し集め 功に申さば 五位の冠	0:05	(D021)	
6	1	336	録画モレ高校 野球11/3/29 と同じ	日めくり万葉集 セレクション	242	東歌 相模国歌(巻14・3368) 口語訳 この頃の私の恋力を記し集めて功績として申請したら 五位の冠ものだな	0:05	(D021)	
6	1	337	2011/8/9	日めくり万葉集 セレクション	261	物部古麻呂 遠江国防人 (巻20・4327) 口語訳 足柄の 刀比の河内に 出づる湯の よにもたよらに 児ろが言はなくに	0:05	(D021)	
6	1	338	2011/4/11	日めくり万葉集 セレクション	251	我が妻も 画に描き取らむ 暇もが 旅行く我は 見つつ偲はむ	0:05	(D021)	
6	1	339	2011/6/29	日めくり万葉集 セレクション	308	わが妻を絵に描き写す時間がほしい そうすれば 旅を行く俺は妻の絵をながめて なつかしさにふけることができる	0:05	(D021)	
6	1	340	2011/8/12	日めくり万葉集 セレクション	278	麻統王 (巻1・24) 口語訳 うつせみの 命を惜しみ 波に濡れ 伊良虞の島の 玉藻刈り食む	0:05	(D021)	
6	1	341	2011/8/15	日めくり万葉集 セレクション	296	この世のはかない命惜しさに 波に濡れながら伊良虞(いらご)の島の 海藻を刈りとりて食べているのです	0:05	(D021)	
6	1	342	2011/8/16	日めくり万葉集 セレクション	282	生ける人 つひにも死ぬる ものであれば 今在る間は 楽しくあらな	0:05	(D021)	
6	1	343	2011/8/17	日めくり万葉集 セレクション	283	生きていく人はいずれ最後には死ぬものであるから 今この世にある間は楽しく生きていよう	0:05	(D021)	
6	1	344	2011/8/18	日めくり万葉集 セレクション	294	作者未詳 (巻9・1714) 口語訳 落ち激ち 流るる水の 岩に触れ 淀める淀に 月の影見ゆ	0:05	(D021)	
6	1	345	2011/8/19	日めくり万葉集 セレクション	299	たぎり落ちて流れる水が岩に触れて 流れがとどこおっている淀みに月の影が見える	0:05	(D021)	
6	1	346	2011/8/22	日めくり万葉集	326	高円の 野辺のかほ花 面影に みえつつ妹は 忘れかねつも	0:05	(D021)	
6	1	347	2011/8/23	日めくり万葉集	327	高円の野のあたりに咲くかお花よ それを見ると幻にあなたの顔がちらついて 片時も忘れられないのだ	0:05	(D021)	
6	1	348	2011/8/24	日めくり万葉集	328	作者未詳 (巻11・2651) 口語訳 難波人 葦火焚く屋の すしてあれど 己が妻こそ 常めづらしき	0:05	(D021)	
6	1	349	2011/8/25	日めくり万葉集	329	口語訳 難波の人が葦火を焚く家のすすけているように すすけてはいるけれど 自分の妻こそはいつまでもかわいい	0:05	(D021)	
6	1	350	2011/8/26	日めくり万葉集	330	秋さらば 見つつ偲へと 妹が植ゑし やどのなでしこ 咲きにけるかも	0:05	(D021)	
6	1	351	2011/8/27	日めくり万葉集	331	秋になったら 見て私を偲んでくださいと 妻が植えた庭のなでしこの花が咲いたよ	0:05	(D021)	
6	1	352	2011/8/28	日めくり万葉集	332	作者未詳 (巻11・2578) 口語訳 朝寝髪 我は梳らじ うるはしき 君が手枕 触れてしものを	0:05	(D021)	
6	1	353	2011/8/29	日めくり万葉集	333	朝の寝乱れ髪を私は櫛で梳いたりいたしません いとしいあなたの手枕が触れた髪ですもの	0:05	(D021)	
6	1	354	2011/8/30	日めくり万葉集	334	柿本人麻呂 (巻3・266) 口語訳 近江の海 夕波千鳥 汝が鳴けば 心もしのに 古思ほゆ	0:05	(D021)	
6	1	355	2011/8/31	日めくり万葉集	335	作者未詳 (巻10・2040) 口語訳 近江の海の夕波千鳥よ おまえが鳴くと心もしみじみと昔のことが思われる	0:05	(D021)	
6	1	356	2011/9/1	日めくり万葉集	336	彦星と織女と 今夜逢はむ 天の川門に 波立つなゆめ	0:05	(D021)	

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1	NHK教育テレビ	「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	346	2011/8/22	日めくり万葉集	口語訳	336	ひこ星と織姫とが 今宵出会う 天の川の渡し場に 波 立つなよ 決して	否f	0:05	(D021)
6	1	347	2011/8/23	日めくり万葉集	大伴部麻与佐(下総国防人) (巻20・4392)	337	天地の いつれの神を 祈らばか 愛し母に また言問はむ	否f	0:05	(D021)
6	1	348	2011/8/24	日めくり万葉集	作者未詳 (巻10・1982)	338	天と地の間にいらっしゃる どの神さまを祈ったらいとしい母さまと いま一度お話しできるだろうか	否f	0:05	(D021)
6	1	349	2011/8/25	日めくり万葉集	大伴家持 (巻20・4483)	339	ひぐらしは 時と鳴けども 恋しくに たわやめ我は 定まらず泣く	否f	0:05	(D021)
6	1	350	2011/8/26	日めくり万葉集	口語訳	340	ひぐらしは 時を決めて盛んに鳴くけれど あなたが恋しくて か弱い女の私は 四六時中泣いてばかりいる	否f	0:05	(D021)
6	1	351	2011/8/29	日めくり万葉集	門部王 (巻6・1013)	341	移り行く 時見るとに 心痛く 昔の人し 思ほゆるかも	否f	0:05	(D021)
6	1	352	2011/8/30	日めくり万葉集	口語訳	342	移り変わる季節を目にするたびに 胸が痛むほどなつかしい 昔の方たちのことが 思い出されてならない	否f	0:05	(D021)
6	1	353	2011/8/31	日めくり万葉集	山上憶良 (巻8・1538)	343	あらかじめ 君来まさむと 知らませば 門にやども 玉敷かましを	否f	0:05	(D021)
6	1	354	2011/9/1	日めくり万葉集	口語訳	344	前もってあなたがお越しになるだろうと知っておりましたならば 門にも庭にも 玉を敷いておきましたのに	否f	0:05	(D021)
6	1	355	2011/9/2	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・350)	345	萩の花 尾花葛花 なでしこが花 をみなえし また藤袴 朝顔が花	否f	0:05	(D021)
6	1	356	2011/9/5	日めくり万葉集	口語訳	346	まず萩の花 尾花 葛の花 なでしこの花 女郎花 それに藤袴 朝顔の花 と これが秋の七種の花なのだよ	否f	0:05	(D021)
6	1	357	2011/9/6	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻3・350)	347	黙居りて 賢しらすは 酒飲みて 酔ひ泣きするに なほ及かずけり	否f	0:05	(D021)
6	1	358	2011/9/7	日めくり万葉集	口語訳	348	黙っていてかこぶっているのは 酒を飲んで酔い泣きをするのに やっぱり及ばないことだ	否f	0:05	(D021)
6	1	359	2011/9/8	日めくり万葉集	大伴家持 (巻17・4029)	349	珠洲の海に 朝開きて 漕ぎ来れば 長浜の浦に 月照りにけり	否f	0:05	(D021)
6	1	360	2011/9/9	日めくり万葉集	口語訳	350	珠洲の海に 朝早く船出して漕いで来ると 長浜の浦では月が照っていたことだ	否f	0:05	(D021)
6	1	361	2011/9/12	日めくり万葉集	作者未詳 (巻10・2103)	351	秋風は 涼しくなりぬ馬並めて いざ野に行かな 萩の花見に	否f	0:05	(D021)
6	1	362	2011/9/13	日めくり万葉集	口語訳	352	秋の風は涼しくなった 馬を並べて さあ 野原に行こうよ 萩の花を見に	否f	0:05	(D021)
6	1	363	2011/9/14	日めくり万葉集	大伴坂上郎女 (巻4・525)	353	佐保川の 小石踏み渡り ぬばたまの 黒馬の来る夜は 年にもあらぬか	否f	0:05	(D021)
6	1	364	2011/9/14	日めくり万葉集	口語訳	354	佐保川の 小石を踏み渡って あなたがお乗りの黒馬の来る夜は 一年中でもあっても欲しいものですわ	否f	0:05	(D021)
6	1	365	2011/9/14	日めくり万葉集	東歌 上野国歌(巻14・3414)	355	伊香保らの やさかのみにて 立つ虹の 顛はるまでも さ寝をさ寝てば	否f	0:05	(D021)
6	1	366	2011/9/14	日めくり万葉集	口語訳	356	伊香保の 幾尺とも知れぬ高い堰(せき)にあざやかに現れる虹のように 人目につくぐらいまでずっとお前と寝ていられたらなあ	否f	0:05	(D021)
6	1	367	2011/9/14	日めくり万葉集	大伴家持 (巻17・3992)	357	布勢の海の 沖つ白波 あり通ひ いや年のはに 見つつしのはむ	否f	0:05	(D021)
6	1	368	2011/9/14	日めくり万葉集	口語訳	358	布勢の海の 沖の白波のように 絶えず通い続けて 毎年毎年この眺めを見て賞でよう	否f	0:05	(D021)
6	1	369	2011/9/14	日めくり万葉集	作者未詳 (巻11・2817)	359	うらぶれて 物は思はじ 水無瀬川 ありても水は 行くといふものを	否f	0:05	(D021)
6	1	370	2011/9/14	日めくり万葉集	口語訳	360	しょんぼりと物思いなどいたしません 水無瀬川 目には見えなくても水は流れてゆくと申しますもの	否f	0:05	(D021)
6	1	371	2011/9/14	日めくり万葉集	坂田部首麻呂(駿河国防人) (巻20・4342)	361	真木柱 ほめて造れる 殿のごと いませ母刀自 面変はりせず	否f	0:05	(D021)
6	1	372	2011/9/14	日めくり万葉集	口語訳	362	「良い木の柱だ」と 褒め称えて造った御殿のごとく いつまでも堅固にて 母上様 面やつれせずにお過ごください	否f	0:05	(D021)
6	1	373	2011/9/14	日めくり万葉集	作者未詳 (巻13・3247)	363	沼名川の 底なる玉 求めて 得し玉かも 拾ひて 得し玉かも あたらしき 君が 老ゆらく惜しも	否f	0:05	(D021)
6	1	374	2011/9/14	日めくり万葉集	口語訳	364	沼名川の 底にあった玉 探し求めて手に入れた玉だなあ やっと拾って手に入れた玉だなあ その玉のようにかけがえのない君が老いるのは惜しいことだ	否f	0:05	(D021)
6	1	375	2011/9/14	日めくり万葉集	鏡王女 (巻4・489)	365	風をだに 恋ふるはともし 風をだに 来むとし待たば 何か嘆かむ	否f	0:05	(D021)
6	1	376	2011/9/14	日めくり万葉集	口語訳	366	風にさえ 恋心を揺らすあなたの なんと うらやましいこと 風の動きにさえ 「あの方が来たのかしら」と待つのでしたら なにも嘆くことなどないのに	否f	0:05	(D021)
6	1	377	2011/9/14	日めくり万葉集	大伴三中 (巻3・444)	367	昨日こそ 君はありしか 思はぬに 浜松の上に 雲にたなびく	否f	0:05	(D021)
6	1	378	2011/9/14	日めくり万葉集	口語訳	368	昨日まで君は世にあったのに 思いがけなくも浜松の上に雲となって たなびいている	否f	0:05	(D021)
6	1	379	2011/9/14	日めくり万葉集	額田王 (巻1・8)	369	熟田津に 船乗りせむと 月待てば 潮もかなひぬ 今は漕ぎ出でな	否f	0:05	(D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考		
A	B	C							
6	1	NHK教育テレビ	「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。						
6	1	363	2011/9/14	日めくり万葉集	353	口語訳 東歌(巻14・3520)	0:05	(D021)	
6	1	364	2011/9/15	日めくり万葉集	354	口語訳 顔かたちを忘れそうになったときには 広い野原に出て たなびく雲を見ては 思い出すようにしましょう あなたの	0:05	(D021)	
6	1	365	2011/9/16	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉料理教室」	355	右兵衛(姓名未詳) (巻16・3837) 口語訳 ひさかたの 雨も降らぬか 蓮葉に 溜まれる水の 玉に似たる見む 空から雨でも降ってこないか ハスの葉に溜る水が 真珠みたいに輝くの見ようではないか	0:05	(D021)	
6	1	366	2011/9/19	日めくり万葉集	356	作者未詳(巻12・2967) 口語訳 年の経ば見つつ偲へと妹が言ひし 衣の縫目見れば悲しも 別れのとき「年が経たら、これを見て思い出してほしい」と いとし女(ひと)が言った その着物の縫い目を見ると ああ せつなくてなあ	0:05	(D021)	
6	1	367	2011/9/20	日めくり万葉集	357	作者未詳(巻8・1594) 口語訳 しぐれの雨 間なくな降りそ 紅に にほへる山の 散らまく惜しも しぐれの雨よ 絶え間なく降らないでおくれ 真っ赤に染まっている山の紅葉の散るのがおしいよ	0:05	(D021)	
6	1	368	2011/9/21	日めくり万葉集	358	坂門人足(さかとこのひとり) (巻11・2495) 口語訳 たらつねの 母が養ふ蚕の 繭隠り 隠れる妹を 見むよしもかも 母が飼う蚕の繭ごりのように 家にこもったままのあの娘を 見る方法があればいいのになあ	0:05	(D021)	
6	1	369	2011/9/22	日めくり万葉集	359	柿本人麻呂歌集より (巻11・2480) 口語訳 道の辺の いちしの花の いちしろく 人皆知りぬ 我が恋妻は 道ばたのいちしの花のように いちしろく はっきりと世間の人 みんなが知ってしまった 私の恋妻のことは	0:05	(D021)	
6	1	370	2011/9/23	日めくり万葉集	360	作者未詳(巻13・3330) 口語訳 こもりくの泊瀬の川の 上つ瀬に鵜を八つ潜け 下つ瀬に鵜を八つ潜け 上つ瀬の鮎を食はしめ 下つ瀬の鮎を食はしめ(抜粋) 山々に囲まれた泊瀬の川の 上の瀬で鵜を八つ潜(もぐ)らせ 下の瀬で鵜を八つ潜(もぐ)らせ 上の瀬の鮎を食わせ 下の瀬の鮎を食わせる	0:05	(D021)	
6	1	371	2011/9/26	日めくり万葉集	361	東歌・上野国歌(巻14・3404) 口語訳 上野 安蘇のま麻群 かき抱き寝れど飽かぬを あどか我がせむ 上野の安蘇の麻束をぐいと引き寄せ抱くように 抱いて共寝をするが 満ち足りないのを ああ どのように俺はしたらいいなのだ	0:05	(D021)	
6	1	372	2011/9/27	日めくり万葉集	362	大伴家持(巻4・749) 口語訳 夢にだに 見えばこそあらめ かくばかり 見えずしあるは 恋ひて死ねとか せめて夢の中でも 逢ってくれるなら まだしも こんなにまで姿を見せないなんて 恋して死ねとのつもりですか	0:05	(D021)	
6	1	373	2011/9/28	日めくり万葉集	363	田辺福麻呂歌集(巻9・1803) 口語訳 語り継ぐ からにもここだ 恋しきを 直目に見けむ 古壮士 伝え聞いただけでもこんなに恋しいのに じかに目で見た昔の若者はどんな思いだったろう	0:05	(D021)	
6	1	374	2011/9/29	日めくり万葉集	364	巫部麻蘇娘子(巻8・1621) 口語訳 我がやどの萩花咲けり/見に来ませ いま二日だみあらば散りなむ わが家の庭の萩が 花をいっぱい咲かせました ぜひ見にいっしょい もう二日ほどしたら 散ってしましましょう	0:05	(D021)	
6	1	375	2011/9/30	日めくり万葉集	365	持統天皇(巻2・161) 口語訳 北山に たなびく雲の青雲の 星離れ行き 月を離れて 北山にたなびいている雲 その青い雲は 今まさに 星を離れて行き 月を離れて行く	0:05	(D021)	
6	1	376	2011/10/3	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉・四季の歌」	366	草嬢(巻4・512) 口語訳 秋の田の 穂田の刈りばか か寄りあはば そこもか人の 我を言なむ 秋の稲穂田の刈り取りの割り当てで あなたと近寄ってしまったら そんなことでも 人は私たちを噂にするでしょうか	0:05	(D021)	
6	1	377	2011/10/4	日めくり万葉集	367	聖徳太子(巻3・415) 口語訳 家にあらば 妹が手まかむ 草枕 旅に臥やせる この旅人あはれ 家にいたら 妻の手を枕とするだろうに 草を枕に旅路で臥せっておられる この旅人 ああ いたわしい	0:05	(D021)	
6	1	378	2011/10/5	日めくり万葉集	368	文屋智努(巻19・4275) 口語訳 天地と 久しきまでに 万代に 仕へ奉らむ 黒酒白酒を 天地(てんち)が続くかぎり いつまでも 永遠に お造りして奉りましょう 黒酒(くろき)と 白酒(しろき)を	0:05	(D021)	
						藤原鎌足(巻2・95)			
						我はもや 安見兒得たり 皆人の 得かてにすといふ 安見兒得たり			

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	379	2011/10/6	日めくり万葉集	口語訳	369	どうだ このおれはな 安見児を手に入れたぞ 誰もが皆 手に入れかねているという評判の安見児を おれは手に入れたぞ	否f	0:05	(D021)
6	1	380	2011/10/7	日めくり万葉集 シリーズ「平城京物語」	作者未詳 (巻10・1880) 口語訳	370	春日野の 浅茅が上に 思ふどち 遊ぶ今日の日 忘れぬやも 春日野の浅茅の草原の上で 親しい仲間たちと遊ぶ 今日の日ことは忘れようか	否f	0:05	(D021)
6	1	381	2011/10/10	日めくり万葉集	栗田女王 (巻18・4060) 口語訳	371	月待ちて 家には行かむ 我が刺せる あから橘 影に見えつつ 月の出るのを待って家へ帰ろう 私の髪にさしている 真っ赤に色づいた橘の実を 月の光に照らしながらね	否f	0:05	(D021)
6	1	382	2011/10/11	日めくり万葉集	久米禪師 (巻2・96) 口語訳	372	み薦刈る 信濃の真弓我が引かば うまなさびて 否と言はむかも み薦刈る信濃で作った弓を引くように わたしが強く引き寄せたら あなたは高貴な方らしく「だめ」と おっしゃるのでしょか	否f	0:05	(D021)
6	1	383	2011/10/12	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻3・251) 口語訳	373	淡路の 野島の崎の 浜風に 妹が結びし 紐吹き返す 淡路の野島の崎の浜風に 妻が再開を祈って結んでくれた着物の紐を吹き返させている	否f	0:05	(D021)
6	1	384	2011/10/13	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より (巻7・1118) 口語訳	374	古に ありけむ人も 我がごとか 三輪の檜原に かざし折りけむ 昔 いた人も 私たちのように 三輪の檜原で 髪飾りの「かざし」にする枝を折ったことであろうか	否f	0:05	(D021)
6	1	385	2011/10/14	日めくり万葉集 シリーズ 「描かれた万葉歌」	大伴坂上郎女 (巻4・526) 口語訳	375	千鳥鳴く 佐保の川瀬の さざれ波 止む時もなし 我が恋ふらくは 千鳥の鳴く佐保川の瀬のさざれ波のように すこしも止むときなどありません 私の恋心は	否f	0:05	(D021)
6	1	386	2011/10/17	日めくり万葉集	東歌 (巻14・3569) 口語訳	376	防人に 立ちし朝明の 金門出に 手離れ惜しみ 泣きし児らはも 防人に出で発つ あの夜明けの門出に 握っていた手を放すのがせつなくて泣いた ああ 私の妻よ	否f	0:05	(D021)
6	1	387	2011/10/18	日めくり万葉集	倭太后 (巻2・147) 口語訳	377	天の原 振り放け見れば 大君の 御寿は長く 天足らしたり 天空を振り仰いで見ると わが大君の御寿命は どこまで長く延び 広い空に満ち満ちております	否f	0:05	(D021)
6	1	388	2011/10/19	日めくり万葉集	市原王 (巻6・1007) 口語訳	378	言問はぬ 木すら妹と兄とありといふを ただ一人子に あるが苦しさ 口をきかない木だって 兄妹があるというのに わたしは ただの一人っ子でいるのが たよりなく苦しい	否f	0:05	(D021)
6	1	389	2011/10/20	日めくり万葉集	高橋虫麻呂 (巻9・1738) 口語訳	379	しなが鳥 安房に継ぎたる 梓弓 末の珠名は 胸別の 広き我妹 腰細の すがる娘子の その姿の きらぎらしきに 花のごと 笑みて立てれば(抜粋) 安房の地につづいている周准(すえ)の珠名(たまな)は 胸幅の広い豊かな娘 腰の細いすがる蜂のような娘子で その姿は輝くばかりな上に 花のように微笑んで立っていると・・・	否f	0:05	(D021)
6	1	390	2011/10/21	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉料理教室」	長意吉麻呂 (巻16・3826) 口語訳	380	蓮葉は かくこそあるもの 意吉麻呂が 家なるものは うもの葉にあらし 蓮の葉とは かくも立派なものであるのか はて だとすると 意吉麻呂の 家に生えているのは どうやら芋の葉っぱだな	否f	0:05	(D021)
6	1	391	2011/10/24	日めくり万葉集	柿本朝臣人麻呂歌集より (巻11・2355) 口語訳	381	うるはしと 我が思ふ妹は はやも死なぬか 生けりとも 我に寄るべしと 人の言はなくて かわいいと私が思うあの娘は 早く死んでしまわないのか 生きていても 私に靡くとは誰も言ってくれはしないのに	否f	0:05	(D021)
6	1	392	2011/10/25	日めくり万葉集	作者未詳 (巻10・1885) 口語訳	382	物皆は 新しき良し ただしくも 人は古りにし 宜しかるべし 物はみんな新しいのがよい ただし 人間だけは古くなったほうがよいだろう	否f	0:05	(D021)
6	1	393	2011/10/26	日めくり万葉集	消奈行文 (巻16・3836) 口語訳	383	奈良山の 児手柏の両面に かにもかくにも 倭人が伴 奈良山の児手柏が 風が吹くと裏を向いたり表を向いたり あちらにも こちらにも どちらにもいい顔をするおべっか使いのねじけた奴	否f	0:05	(D021)
6	1	394	2011/10/27	日めくり万葉集	久米女王 (巻8・1583) 口語訳	384	もみぢ葉を 散らすしぐれに 濡れて来て 君が黄葉を かざしつるかも もみぢ葉を 散らして降るしぐれの中を 濡れながらやって来て あなたの手折られたもみぢを髪にさしたることよ	否f	0:05	(D021)
6	1	395	2011/10/28	日めくり万葉集 シリーズ「万葉玉手箱」	作者未詳 (巻6・949) 口語訳	385	梅柳 過ぐらく惜しみ 佐保の内に 遊びしことを 宮もどろに 梅や柳のよい季節 過ぎて行くのが惜しいので 佐保の辺りに遊んだことが 御所中に 響きわたるほど 騒ぎ立てられていることだ	否f	0:05	(D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考		
A	B	C							
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。						
6	1	396	2011/10/31	日めくり万葉集 大伴旅人(巻3・343) 口語訳	386	なかなか人とあらずは 酒壺に なりにてしかも 酒に染みなむ なまじっか人間でいるよりは いっそ酒壺になってしまいたいものだ そうしたら酒に浸ってられよう	否f	0:05	(D021)
6	1	397	2011/11/1	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉・四季の歌」 額田王(巻1・16) 口語訳	387	秋山の木の葉を見ては 黄葉をば 取りてそしのふ 青きをば 置きてそ嘆く そこし恨めし 秋山そ我は 秋山の木の葉を見るときは 色づいた葉を折りとって愛で まだ青い葉はそのまま置いて ため息をつく そう そこだけが残念 秋山です 私は	否f	0:05	(D021)
6	1	398	2011/11/2	日めくり万葉集 磐姫皇后(巻2・85) 口語訳	388	君が行き 日長くなりぬ 山尋ね 迎へか行かむ 待ちにか待たむ 大君が行幸になられて もうずいぶんと日がたちました 山道を辿ってお迎えに行こうか それとも このままじっと 待っていようか	否f	0:05	(D021)
6	1	399	2011/11/3	日めくり万葉集 作者未詳(巻11・2650) 口語訳	389	そぎ板持ち 葺ける板目の あはざらば いかにせむとか 我が寝そめけむ そぎ板で葺いた屋根の板目のように 逢わないでいたらどうするつもりで 私は共寝をし始めたのだろうか	否f	0:05	(D021)
6	1	400	2011/11/4	日めくり万葉集 シリーズ「平城京物語」 作者未詳(巻10・2150) 口語訳	390	秋萩の 散り行く見れば おほほしみ つま恋すらし さ雄鹿鳴くも 秋萩の散っていくのを見ると 心が晴れず 萩に妻恋をするらしい 雄鹿が泣くよ	否f	0:05	(D021)
6	1	401	2011/11/7	日めくり万葉集 柿本人麻呂(巻2・211) 口語訳	391	去年見てし 秋の月夜は 照らせども 相見し妹はいや年離る 去年見ていた秋の月は今も照っているというのに 一緒に月を見た妻は 年月とともにいよいよ遠ざかってゆく	否f	0:05	(D021)
6	1	402	2011/11/8	日めくり万葉集 柿本人麻呂歌集より (巻7・1101) 口語訳	392	ぬばたまの 夜さり来れば 巻向の 川音高しも あらしかも早き ぬばたまの夜になってくると 巻向川の川音が高くなったぞ 山おろしの風が激しく吹いているからか	否f	0:05	(D021)
6	1	403	2011/11/9	日めくり万葉集 作者未詳(巻11・2540) 口語訳	393	振分けの 髪を短み 青草を 髪にたくらむ 妹をしそ思ふ 振分けの髪が短いので 青草を髪に加えて束ねているであろう あの娘のことを恋しく思う	否f	0:05	(D021)
6	1	404	2011/11/10	日めくり万葉集 柿本人麻呂(巻4・497) 口語訳	394	古にありけむ人も 我がごとか 妹に恋ひつつ 寝ねかてずけむ 古の人も今のわたしのように 愛しい人を想い続けて 眠れなかったのだろうか	否f	0:05	(D021)
6	1	405	2011/11/11	日めくり万葉集 シリーズ 「描かれた万葉歌」 山部赤人(巻3・318) 口語訳	395	田子の浦ゆ うち出でて見れば ま白にそ 富士の高嶺に 雪は降りける 田子の浦を通り 眺めのよいところに出て望み見ると 真っ白に 富士の高嶺に 雪が降っている	否f	0:05	(D021)
6	1	406	2011/11/14	日めくり万葉集 東歌(巻14・3465) 口語訳	396	高麗錦 紐解き放けて 寝るが上に あどせるとかも あやにかなしき 高麗錦の下紐を解き放って 抱きあっているのに これ以上 どうしろというのか ああ あまりにいとしくてたまらない	否f	0:05	(D021)
6	1	407	2011/11/15	日めくり万葉集 大伴田村大嬢(巻8・1662) 口語訳	397	沫雪の 消ぬべきものを 今までに 流らへぬるは 妹に逢はむとそ まるで泡雪みたいに消えてしまいそうな私なのに 今まで生き長らえているのは あなたに会いたいと思うからです	否f	0:05	(D021)
6	1	408	2011/11/16	日めくり万葉集 柿本人麻呂歌集より (巻7・1088) 口語訳	398	あしひきの 山川の瀬の 鳴るなへに 弓月が岳に 雲立ち渡る あしひきの 山川の瀬が鳴り響くとともに 弓月が岳に雲が一面に立ちのぼる	否f	0:05	(D021)
6	1	409	2011/11/17	日めくり万葉集 柿本人麻呂(巻3・253) 口語訳	399	稲日野も 行き過ぎかてに 思へれば 心恋しき 加古の島見ゆ 稲日野も素通りしかねる思っているところに 心恋しい加古の島が見えてきた	否f	0:05	(D021)
6	1	410	2011/11/18	日めくり万葉集 シリーズ 「作家たちの万葉集」 大伴家持(巻4・741) 口語訳	400	夢の逢ひは 苦しかりけり おどろきて 掻き探れども 手にも触れねば 夢の中で抱き合うのは 苦しいことよ 目覚めて掻き探っても あなたを 手にさえ触れられないのだから	否f	0:05	(D021)
6	1	411	2011/11/21	日めくり万葉集 作者未詳(巻7・1209) 口語訳	401	人ならば 母が愛子そ あさもよし 紀伊の川の辺の 妹と背の山 もし人間だったら お母さんの最愛の子だ 紀の川のそばの妹の山と背の山は	否f	0:05	(D021)
6	1	412	2011/11/22	日めくり万葉集 大伴家持(巻8・1448) 口語訳	402	我がやどに 蒔きしなでしこは いつしかも 花に咲きなむ なそへつつ見む わが家の庭に蒔いたなでしこは いつになったら咲くのだろう その花をあなたと思って眺めよう	否f	0:05	(D021)
6	1	413	2011/11/23	日めくり万葉集 今奉部与曾布(巻20・4373) 口語訳	403	今日よりは かへり見なくて 大君の 醜の御楯と 出で立つ我は 今日からは 思い残すことなく 大君をお守りするつたない盾となって出て行くのだ おれは	否f	0:05	(D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	414	2011/11/24	日めくり万葉集	作者未詳 (巻8・1634) 口語訳	404	衣手に 水渋付くまで 植ゑし田を 引板我が延へ 守れる苦し 袖に水垢がつくほど苦勞して植えた田んぼなのになあ 鳴子をつけた縄を巡らせて見張りをするとほ つらいものだ	否f	0:05	(D021)
6	1	415	2011/11/25	日めくり万葉集 シリーズ「万葉玉手箱」	東歌 (巻14・3546) 口語訳	405	青柳の 萌らる川門に 汝を待つと 清水は汲まず 立ち処平すも 青い柳の芽がふくらむ川のほとりであなたを待って 清水は汲まずに地面を踏みならしています	否f	0:05	(D021)
6	1	416	2011/11/28	日めくり万葉集	山部赤人 (巻6・925) 口語訳	406	ぬばたまの 夜のふけ行けば 久木生ふる 清き川原に 千鳥しば鳴く ぬばたまの 夜がふけてゆくと ひさ木の生えている 清らかな川原で 千鳥がちち ちち とひっきりなしに鳴いている	否f	0:05	(D021)
6	1	417	2011/11/29	日めくり万葉集	東歌 常陸国歌(巻14・3393) 口語訳	407	筑波嶺の をてもこのもに 守部据ゑ 母い守れども 魂そ合ひにける 筑波山のあちらこちらに見張りを置くみたい 母さんは わたしを見張っているけれども 二人の魂はもう出合ってしまったの	否f	0:05	(D021)
6	1	418	2011/11/30	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻3・254) 口語訳	408	燈火の 明石大門に 入らむ日や 漕ぎ別れなむ 家のあたり見ず 明石海峡に船が入ってゆく日には 大和とも漕ぎ別れることであろうか 家の辺りを見ることもなく	否f	0:05	(D021)
6	1	419	2011/12/1	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉・四季の歌」	作者未詳 (巻10・2318) 口語訳	409	夜を寒み 朝戸を開き 出で見れば 庭もはだらに み雪降りたり 夜が寒かったので 朝戸を開いて出してみると 庭にはうっすらと雪が降っていたことだ	否f	0:05	(D021)
6	1	420	2011/12/2	日めくり万葉集 シリーズ「平城京物語」	高橋虫麻呂 (巻9・1748) 口語訳	410	我が行きは 七日は過ぎ 龍田彦 ゆめこの花を 風にな散らし われわれは七日以内に帰ってまいります 竜田の神よ どうかこの花を風に散らさないでください	否f	0:05	(D021)
6	1	421	2011/12/5	日めくり万葉集	作者未詳 (巻13・3312) 口語訳	411	こもりくの 泊瀬小国に よばひせず 我が天皇よ 奥床に 母は寝ねたり 外床に 父は寝ねたり 起き立たば 母知りぬべし 出でて行かば 父知りぬべし ぬばたまの 夜は明け行きぬ ここだくも 思ふごとならぬ 隠り妻かも こもりくの泊瀬の小国に妻問いなさる我が天皇よ 奥の床に母は寝ています 入り口の床に父は寝ています 私が起き立ったら 母が気付くでしょう 私が出て行ったら 父が気付くでしょう ぬばたまの夜はもう 明けてしまいました こんなにも思うにまかせない隠り妻なのですよ この私は	否f	0:05	(D021)
6	1	422	2011/12/6	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・804) 口語訳	412	世間の すべなきものは 年月は 流るごとし とり続き 追ひ来るものは 百種に せめ寄り来る 娘子らが 娘子さびすと 韓玉を 手本に巻かし 同年児らと 手携はりて 遊びけむ 時の盛りを 留みかね 過ぐし遣りつれ 蝮の腸 か黒き髪に いつの間か 霜の降りけむ 紅の 面の上に いくづゆか 皺が来りし この世の中の何ともしようのないものは 年月が流れるように 過ぎ去ることであり 年月にくっついて追ってくるもの(老い)が さまざまに襲ってくることだ 娘子たちが 娘子らしく振るまおうと 舶来の玉を腕に巻いて 仲間たちと手を取り合って 遊んだらう若い盛りの時を 留めきれずに過ごしてしまうと 蝮(ニナ)の腸のように真っ黒な髪に いつの間に霜が降ったのだろうか 紅色の顔の上に どこから皺がやってきたのか・・・	否f	0:05	(D021)
6	1	423	2011/12/7	日めくり万葉集	草薙 (巻4・512) 口語訳	413	秋の田の 穂田の刈りばか か寄りあはば そこもか人の 我を言なさむ 秋の田の稲穂を刈り取る割り当てで つい近寄ってしまったら そんなことでも人は私たちを噂にするでしょうか	否f	0:05	(D021)
6	1	424	2011/12/8	日めくり万葉集	丹生女王 (巻8・1610) 口語訳	414	高円の秋野の上のなでしこが花 うら若み人のかざししなでしこが花 高円の秋の野辺に咲くなでしこの花よ 若さゆえ あなたがかざしにしたなでしこの花よ	否f	0:05	(D021)
6	1	425	2011/12/9	日めくり万葉集 シリーズ 「作家たちの万葉集」	作者未詳 (巻13・3249) 口語訳	415	磯城島の 大和の国に 人二人 ありとし思はば 何か嘆かむ 磯城島の大和の国に 私の思う人が二人あると思うのならば どうしてこんなに嘆くことがありましょう	否f	0:05	(D021)
6	1	426	2011/12/12	日めくり万葉集	有度部牛麻呂 (巻20・4337) 口語訳	416	水鳥の 発ちの急ぎに 父母に 物言ず来にて 今ぞ悔しき 水鳥たちが一斉に飛び立つように この俺は 出で立ちの忙しさの中で父母に 物も言わずに来てしまった 今 思っても悔やまれてならない	否f	0:05	(D021)
6	1	427	2011/12/13	日めくり万葉集	藤原夫人 (巻2・104) 口語訳	417	我が岡の (おかみ)に言いひて 降ふらしめし 雪ゆきの摧くだけし そこに散ちりけむ 大雪が降ったとたいへんご自慢ですが その雪は私が住む この岡の龍神に命じて 降らせた雪 その砕けた ほんの欠片(かけら)が あなたののもとに 飛び散っただけでしょう	否f	0:05	(D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考		
A	B	C								
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。						
6	1	428	2011/12/14	日めくり万葉集	中皇命 (巻1・3)	418	やすみしし 我が大君の 朝には 取り撫でたまひ 夕には い寄り立たしし みとらしの 梓の弓の 中弭の 音すなり 朝狩に 今立たすらし 夕狩に 今立たすらし みとらしの 梓の弓の 中弭の 音すなり	否	0:05	(D021)
					口語訳		やすみしし 我が大君が 朝には手に取ってお撫でになり 夕には傍にお立ちになっていた ご愛用の梓の弓の中弭の音が聞こえます 朝狩に今お発ちになられるらしい 夕狩に今お発ちになられるらしい ご愛用の梓の弓の中弭の音が聞こえます			
6	1	429	2011/12/15	日めくり万葉集	大伴家持 (巻19・4291)	419	我がやどの いささ群竹 吹く風の 音のかそけき この夕かも	否	0:05	(D021)
					口語訳		我が家の庭の ほんの少しの群竹に吹く風の 音のかすかに聞こえるこの夕べよ			
6	1	430	2011/12/16	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉料理教室」	娘子 (巻16・3810)	420	味飯を 水に醸み成し 我が待ちし 代はかつてなし 直にしあらねば	否	0:05	(D021)
					口語訳		うまい蒸し米を醸して酒を造り 私が待った甲斐はさっぱりなかったわ 直に あなたがやって来たわけではないのだから			
6	1	431	2011/12/19	日めくり万葉集	作者未詳 (巻16・3858)	421	このころの 我が恋力 記し集め 功に申さば 五位の冠	否	0:05	(D021)
					口語訳		この頃の私の恋力を記し集めて 功績として申請したら 五位の冠ものだな			
6	1	432	2011/12/20	日めくり万葉集	山部赤人 (巻3・318)	422	田子の浦ゆ うち出でて見れば ま白にそ 富士の高嶺に 雪は降りける	否	0:05	(D021)
					口語訳		田子の浦越しに うち出て見ると 真っ白に 富士の高嶺に 雪が降っている			
6	1	433	2011/12/21	日めくり万葉集	道祖王 (巻19・4284)	423	新しき 年の初めに 思ふどち い群れて居れば 嬉しくもあるか	否	0:05	(D021)
					口語訳		新しい年の初めに 気のあった仲間たちで集まっていると うれしいことだよ			
6	1	434	2011/12/22	日めくり万葉集	笠女郎 (巻4・594)	424	我がやどの 夕影草の 白露の 消ぬがにもとな 思ほゆるかも	否	0:05	(D021)
					口語訳		わが家の庭の夕影草の白露のように この身も消えているばかりに むじょうに思われることだ			
6	1	435	2011/12/23	日めくり万葉集 シリーズ「平城京物語」	橘諸兄 (巻17・3922)	425	振る雪の 白髪までに 大君に 仕へ奉れば 貴くもあるか	否	0:05	(D021)
					口語訳		降る雪のように髪が白くなるまで大君にお仕え申し上げることは まことに尊く忝ないことでございます			
6	1	436	2011/12/26	日めくり万葉集 セレクション	大伴部麻与佐(下総国防人) (巻20・4392)	337	天地の いづれの神を 祈らばか 愛し母に また言問はむ	否	0:05	(D021)
					口語訳		天と地の間にいらっしゃる どの神さまを祈ったら いとしい母さまに いま一度お話しできるだろうか			
6	1	437	2011/12/27	日めくり万葉集 セレクション	鏡王女 (巻4・489)	351	風をだに 恋ふるはともし 風をだに 来むし待たば 何か嘆かむ	否	0:05	(D021)
					口語訳		風にさえ 恋心を揺らすあなたの なんと うらやましいこと 風の動きにさえ 「あの方が来たのかしら」と待つのでしたら			
6	1	438	2011/12/28	日めくり万葉集 セレクション	高橋虫麻呂 (巻9・1738)	379	しなが鳥 安房に継ぎたる 梓弓 末の珠名は 胸別の 広き我妹 腰細の すがる娘子の その姿の きらぎらしきに 花のごと 笑みて立てれば(抜粋)	否	0:05	(D021)
					口語訳		安房の地につづいている周淮(すえ)の珠名(たまな)は 胸幅の広い豊かな娘 腰の細いすがる蜂のような娘子で その姿は輝くばかりな上に 花のように微笑んで立っていると・・・			
6	1	439	2011/12/29	日めくり万葉集 セレクション	柿本人麻呂 (巻2・211)	391	去年見てし 秋の月夜は 照らせども 相見し妹は いや年離る	否	0:05	(D021)
					口語訳		去年見ていた秋の月は今も照っているというのに 一緒に月を見た妻は 年月とともにいよいよ遠ざかってゆく			
6	1	440	2011/12/30	日めくり万葉集 セレクション	東歌 (巻14・3465)	396	高麗錦 紐解き放けて 寝るが上に あどせろとかも あやにかなしき	否	0:05	(D021)
					口語訳		高麗錦の下紐を解き放って 抱きあっているのに これ以上 どうしろというのか ああ あまりに いとしくてたまらない			
6	1	441	2012/1/4	日めくり万葉集 セレクション	文屋智努 (巻19・4275)	368	天地と 久しきまでに 万代に 仕へ奉らむ 黒酒白酒を	否	0:05	(D021)
					口語訳		天地が続くかぎり いつまでも 永遠に お造りして奉りましょう 黒酒(くろき)と 白酒(しろき)を			
6	1	442	2012/1/5	日めくり万葉集 セレクション	作者未詳 (巻11・2540)	393	振分の 髪を短み 青草を 髪にたくらむ 妹をしそ思ふ	否	0:05	(D021)
					口語訳		振分けの髪が短いので 青草を髪に加えて束ねているであろう あの娘のことを恋しく思う			
6	1	443	2012/1/6	日めくり万葉集 セレクション	山部赤人 (巻6・925)	406	ぬばたまの 夜のふけ行けば 久木生ふる 清き川原に 千鳥しば鳴く	否	0:05	(D021)
					口語訳		ぬばたまの 夜がふけてゆくと ひさ木の生えている 清らかな川原で 千鳥がちち ちち とひっきりなしに鳴いている			
6	1	444	2012/1/9	日めくり万葉集 シリーズ	大伴家持 (巻20・4493)	426	初春の 初子の今日の 玉簪 手に取るからに 揺らく玉の緒	否	0:05	(D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1	NHK教育テレビ	「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	444	2012/1/9	「万葉・四季の歌」	口語訳	420	初春の 初子の日である今日の玉箒よ 手に取るだけでゆらゆらと音を立てる 玉の緒よ	否f	0:05	(D021)
6	1	445	2012/1/10	日めくり万葉集	高橋虫麻呂 (巻9・1759)	427	鶯の住む 筑波の 山の裳羽服津の その津の上に 率ひて 娘子壮士の行き集ひ かがふ歌に 人妻に 我も交はらむ 我が妻に 人も言問へこの山を うしはく神の 昔より 禁めぬ行事ぞ 今日のみは めぐしもな見そ 事も答むな	否f	0:05	(D021)
6	1	446	2012/1/11	日めくり万葉集	作者未詳 (巻10・2100)	428	秋田刈る 仮廬の宿り にほふまで 咲ける秋萩 見れど飽かぬかも	否f	0:05	(D021)
6	1	447	2012/1/12	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻3・255)	429	天ざかる 鄙の長道ゆ 恋ひ来れば 明石の門より 大和島見ゆ	否f	0:05	(D021)
6	1	448	2012/1/13	日めくり万葉集 シリーズ 「描かれた万葉歌」	山部赤人 (巻6・919)	430	若の浦に 潮満ち来れば 濁をなみ 葦辺をさして 鶴鳴き渡る 若の浦に潮がさしてくると だんだん干潟がなくなるので 葦の茂る岸辺をさして 鶴の群れがしきりに鳴きわたってゆく	否f	0:05	(D021)
6	1	449	2012/1/16	日めくり万葉集	志貴皇子 (巻1・64)	431	葦辺行く 鴨の羽がひに 霜降りて 寒き夕は 大和し思ほゆ	否f	0:05	(D021)
6	1	450	2012/1/17	日めくり万葉集	坂門人足 (巻1・54)	432	巨勢山の つらつら椿 つらつらに 見つつ思はな 巨勢の春野を	否f	0:05	(D021)
6	1	451	2012/1/18	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集(巻7・1068)	433	天の海に 雲の波立ち 月の舟 星の林に 漕ぎ隠る見ゆ	否f	0:05	(D021)
6	1	452	2012/1/19	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・805)	434	常磐なす かくしもがも 思へども 世の理なれば 留みかねつも	否f	0:05	(D021)
6	1	453	2012/1/20	日めくり万葉集 シリーズ 「作家たちの万葉集」	柿本人麻呂 (巻2・208)	435	秋山の 黄葉を繁み 惑いぬる 妹を求めん 山路知らずも	否f	0:05	(D021)
6	1	454	2012/1/23	日めくり万葉集	東歌 作者未詳(巻14・3516)	436	対馬の嶺は 下雲あらなふ 可牟の嶺に たなびく雲を 見つつ思はも	否f	0:05	(D021)
6	1	455	2012/1/24	日めくり万葉集	六人部鯖麻呂 (巻15・3696)	437	新羅辺か 家にか帰る 壱岐の島 行かむたどきも 思ひかねつも	否f	0:05	(D021)
6	1	456	2012/1/25	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻2・218)	438	楽浪の 志賀津の児らが 罷り道の 川瀬の道を見ればさぶしも	否f	0:05	(D021)
6	1	457	2012/1/26	日めくり万葉集	大伴家持 (巻8・1441)	439	うち霧らし 雪は降りつつ しかすがに 我家の園に うぐひす鳴くも	否f	0:05	(D021)
6	1	458	2012/1/27	日めくり万葉集 シリーズ「万葉玉手箱」	作者未詳 (巻13・3245)	440	天橋も 長くもがも 高山も 高くもがも 月読の持てるをち水 い取り来て 君に奉りて をちえてしかも	否f	0:05	(D021)
6	1	459	2012/1/30	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・897)	441	年長く 病みし渡れば 月重ね 憂へ吟ひ ことことは 死ななと思へど 五月蠅なす 騒く子どもを 打棄てては 死には知らず 見つつあれば 心は燃えぬ かにかくに 思ひ煩ひ 音のみし泣かゆ	否f	0:05	(D021)
				日めくり万葉集	作者未詳 (巻12・3101)		紫は 灰さすものそ 椿市の 八十の衢に 逢へる児や誰			

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	460	2012/1/31	シリーズ 「万葉・四季の歌」	口語訳	442	紫染めには椿の灰を加えるものです その椿の木のあるツバキチの たくさんの道が交差するところで出会った娘さん あなたは誰ですか	否f	0:05	(D021)
6	1	461	2012/2/1	日めくり万葉集	口語訳	443	梅の花 夢に語らく みやびたる 花と我思ふ 酒に浮かべこそ 梅の花が夢の中で語ったこと— 「風流な花だと私は自分を思います お酒に浮べてくださいな」	否f	0:05	(D021)
6	1	462	2012/2/2	日めくり万葉集	口語訳	444	百済野の 萩の古枝に 春待つと 居りしうぐひす 鳴きにけむかも 百済野の萩の枯れ枝に 春を待つとまっていたうぐいすは もう鳴き始めただろうか	否f	0:05	(D021)
6	1	463	2012/2/3	日めくり万葉集 シリーズ「平城京物語」	口語訳	445	大船に ま握し貫き この我子を 唐国へ遣る 斎へ神たち 大船に左右に梶をいっぱい取り付けて この我が子を唐の国へ遣わします 守らせたまえ 神たちよ	否f	0:05	(D021)
6	1	464	2012/2/6	日めくり万葉集	口語訳	446	ももしきの 大宮人は 暇あれや 梅をかざして ここに集へる 宮殿でお仕えている役人たちは お暇があるようだ 梅を髪にさして ここに集まって遊んでいる	否f	0:05	(D021)
6	1	465	2012/2/7	日めくり万葉集	口語訳	447	降る雪は あはにな降りそ 吉隠の 猪養の岡の 寒からまくに 降る雪は たんと降るではないぞ 吉隠の猪養の岡に眠る皇女が寒いだろうから	否f	0:05	(D021)
6	1	466	2012/2/8	日めくり万葉集	口語訳	448	道の辺の いちしの花の いちしろく 人皆知りぬ 我が恋妻は 道ばたのいちしの花のように 著しく一はっきりと世間の人みんなが知ってしまった 私の恋妻のことは	否f	0:05	(D021)
6	1	467	2012/2/9	日めくり万葉集	口語訳	449	防人に 立たむ騒きに 家の妹が 業るべきことを 言はず来ぬかも 防人に発つせわしなさにとり紛れて 家の妻がすべき 田畑仕事のあれこれを言い残さずに出て来てしまったなあ	否f	0:05	(D021)
6	1	468	2012/2/10	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉料理教室」	口語訳	450	住吉の 粉浜のしじみ 開けも見ず 隠りてのみや 恋ひ渡りなむ 住吉の粉浜のしじみが口を閉ざしているように 胸の思いを打ち明けもせず 心に隠したまま 恋し続けていてよいのだろうか 私は	否f	0:05	(D021)
6	1	469	2012/2/13	日めくり万葉集	口語訳	451	夕闇は 道たづたづし 月待ちていませ我が背子 その間にも見む 夕闇暮れの道は 暗くたどたどしいものでございます どうか月の上るのを待って おお立ちください その間にも お顔を見ていとうございます	否f	0:05	(D021)
6	1	470	2012/2/14	日めくり万葉集	口語訳	452	一世には 二度見えぬ 父母を 置きてや長く 我が別れなむ この一世では二度と逢えない父母を あとに残して 長しえに私は別れてしまうのか	否f	0:05	(D021)
6	1	471	2012/2/15	日めくり万葉集	口語訳	453	酒杯に 梅の花浮かべ 思ふどち 飲みての後は 散りぬともよし 盃に梅の花を浮かべ 仲間同士で汲みかわしたその後は 梅よ散ってしまってもかまわない	否f	0:05	(D021)
6	1	472	2012/2/16	日めくり万葉集	口語訳	454	心をし 無何有の郷に 置きてあらば 藐孤射の山を 見まく近けむ 心を 無何有の郷に置いて 無念無想の心境を続けたならば 仙人の住むという藐孤射(まこや)の山を見る日も近いことであろう	否f	0:05	(D021)
6	1	473	2012/2/17	日めくり万葉集 シリーズ 「作家たちの万葉集」	口語訳	455	ひさかたの 天の川瀬に 舟浮けて 今夜か君が 我がり来まさむ 天の川に 舟を浮かべて 今夜ほんとにあの方は わたしの所へいらっしゃるだろうか	否f	0:05	(D021)
6	1	474	2012/2/20	日めくり万葉集	口語訳	456	風をだに 恋ふるはともし 風をだに 来むとし待たば 何か嘆かむ 風にさえ 恋心を揺らすあなたの なんと うらやましいこと 風の動きにさえ「あの方が来たのかしら」と思って待つことができるならば なにも嘆くことはないのに	否f	0:05	(D021)
6	1	475	2012/2/21	日めくり万葉集	口語訳	457	勝鹿の 真間の手児名が 麻衣に 青き衿付け ひたさ麻を 裳には織り着て 髪だにも 搔きは梳らず 沓をだにはかず行けども 錦綾の 中に包める 斎ひ兒も 妹に及かめや(抜粋) 葛飾の真間の手児名が 麻の服に青い襟を付け 麻糸だけを裳に織って着て 髪さえも梳(くしけづ)らず 沓(くつ)をさえ履かず歩いて行くけれども 錦や綾の中に包んだ 大切なお嬢様も この娘に及びはしない(抜粋)	否f	0:05	(D021)
6	1	476	2012/2/22	日めくり万葉集	口語訳	458	やくもさす 出雲の兒らが 黒髪は 吉野の川の 沖になづさふ (やくもさす)出雲のおとめの黒髪は 吉野の川の沖に漂っている	否f	0:05	(D021)

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分	代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考			
A	B	C								
6	1		NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。							
6	1	477	2012/2/23	日めくり万葉集	雄略天皇 (巻1・1)	459	籠もよ み籠持ち ふくしもよ みぶくし持ち この岡に 菜摘ます兒 家告らせ 名告らさね そらみつ 大和の国は おしなべて 我こそ居れ しきなべて 我こそいませ 我こそば 告らめ 家をも名をも	否f	0:05	(D021)
					口語訳		籠も 良い籠を持ち ふくしも 良いふくしを持って この岡で 菜を摘まれる乙女子よ ご身分は 名も明かされよ (そらみつ) この大和は ことごとく わたしが君臨している国だ すみずみまで わたしが治めている国だ わたしの方こそ 告げよう 身分も名前も			
6	1	478	2012/2/24	日めくり万葉集 シリーズ「万葉玉手箱」	元正天皇 (巻20・4293)	460	あしひきの 山行きしかば 山人の 朕に得しめし 山づとそこれ	否f	0:05	(D021)
					口語訳		あしひきの山を歩いてみたら 出会った山人がわれに手に入れた山の土産なのだよ ほら これが			
6	1	479	2012/2/27	日めくり万葉集	大伴家持 (巻17・3965)	461	春の花 今は盛りに にほふらむ 折りてかざさむ 手力もがも	否f	0:05	(D021)
					口語訳		春の花は今を盛りと咲き匂っていることだろう 手折って髪に挿す力が欲しいものだ			
6	1	480	2012/2/28	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉・四季の歌」	若宮年魚麻呂 (巻8・1429)	462	娘らがが かざしのために みやびをの 縵のためと 敷きませる 国のはたてに 咲きにける 桜の花の にほひはもあなに	否f	0:05	(D021)
					口語訳		乙女らの かざしのために 風流士の かずらのためにと 大君のおお治めになっている 国の隅々まで 咲き満ちている 桜の花の 輝くばかりのこの美しさは素晴らしいなあ			
6	1	481	2012/2/29	日めくり万葉集	柿本人麻呂歌集より(巻9・1699)	463	巨椋の 入江とよむなり 射目人の 伏見が田居に 雁渡るらし	否f	0:05	(D021)
					口語訳		巨椋の入江が鳴り響いている (射目人の)伏見の田んぼに雁が飛び渡って行くらしい			
6	1	482	2012/3/1	日めくり万葉集	山部赤人 (巻8・1424)	464	春の野に すみれ摘みにと 来し我そ 野をなつかしみ 一夜寝にける	否f	0:05	(D021)
					口語訳		春の野に すみれを摘みに 来たわたしは 野に魅せられて 思わず一夜を明かしてしまった			
6	1	483	2012/3/2	日めくり万葉集 シリーズ「平城京物語」	作者未詳 (巻6・1045)	465	世間を 常なきものと 今そ知る 奈良の都の うつろふ見れば	否f	0:05	(D021)
					口語訳		世の中が 無常なものと 今こそ思い知った 奈良の都の さびれるのを見ると			
6	1	484	2012/3/5	日めくり万葉集	作者未詳 東歌(巻14・3452)	466	おもしろき 野をばな焼きそ 古草に 新草交じり 生ひは生ふるがに	否f	0:05	(D021)
					口語訳		面白い眺めの野を焼いてはいけない 冬枯れの古い草に 春の若草が交じって 生い茂るなら生い茂りたいように 任せておくのがよい			
6	1	485	2012/3/6	日めくり万葉集	大伴家持 (巻19・4140)	467	我が園の 李の花か 庭に散る はだれのいまだ 残りたるかも	否f	0:05	(D021)
					口語訳		私の園の李の花が庭に散っているのだろうか それとも薄雪がまだ残っているのだろうか			
6	1	486	2012/3/7	日めくり万葉集	作者未詳 (巻7・1102)	468	大君の 三笠の山の 帯にせる 細谷川の 音のさやけさ	否f	0:05	(D021)
					口語訳		(大君の御笠にちなむ名をもつ)三笠山が帯にしている 細谷川の瀬音のすがすがしさよ			
6	1	487	2012/3/8	日めくり万葉集	安倍広庭 (巻3・302)	469	児らが家道 やや間遠きを ぬばたまの 夜渡る月に 競ひあへむかも	否f	0:05	(D021)
					口語訳		あの子の家までの道のりはちょっと遠いが (ぬばたまの)夜空を渡る月より早く行き着けるだろうか			
6	1	488	2012/3/9	日めくり万葉集 シリーズ 「万葉料理教室」	作者未詳 (巻16・3871)	470	角島の 瀬戸のわかめは 人のむた 荒かりしかど 我とは和海藻	否f	0:05	(D021)
					口語訳		角島の海峡でとれるワカメは 人と一緒だと (アラメのように) 荒々しいのだけれど 俺といるとニキメ(和海藻)のように やわらかな女なのさ			
6	1	489	2012/3/12	日めくり万葉集	大蔵少輔丹比屋真人 (巻8・1442)	471	難波辺に 人の行ければ 後れ居て 春菜摘む子を 見るが悲しき	否f	0:05	(D021)
					口語訳		難波の方へ夫が出かけているので ひとりあとに残って春菜を摘んでいる子 その子を見ると いたおしくてならない			
6	1	490	2012/3/13	日めくり万葉集	山上憶良 (巻1・63)	472	いざ子ども 早く日本へ 大伴の 三津の浜松 待ち恋ひぬらむ	否f	0:05	(D021)
					口語訳		さあ みんな 早く日本へ帰ろう 出立の地の大伴の三津の浜松 ああそのマツではないが 人々が待ち焦がれていることだろう			
6	1	491	2012/3/14	日めくり万葉集	大伴家持 (巻19・4291)	473	我がやどの いささ群竹 吹く風の 音のかそけき この夕かも	否f	0:05	(D021)
					口語訳		我が家の庭の ほんの少しの群竹に吹く風の 音のかすかに聞こえるこの夕べよ			
6	1	492	2012/3/15	日めくり万葉集	山上憶良 (巻5・890)	474	出でて行きし 目を数へつつ 今日今日と 我を待たすらむ 父母らはも	否f	0:05	(D021)
					口語訳		旅立っていった目を数えながら 今日今日とは 私を待っておられるだろう父と母は ああ!			

保存DVD一覧表(日めくり万葉集)

区分A=06:文学・教養、区分B=1:文学、2:教養、3:漫画・アニメーション、4:、区分C=DVD番号

2009/12/31更新

区分		代表日付	内容区分	DVBタイトル	SEQ	内容	時間	備考		
A	B	C								
6	1			NHK教育テレビ「日めくり万葉集」の放送を録画、～セレクション再放送～を外して編集した。						
6	1	493	2012/3/16	日めくり万葉集 シリーズ「万葉玉手箱」	大伴坂上郎女 (巻3・379)	475	ひさかたの 天の原より 生れ来る 神の命 奥山の さかきの枝に しらか付け 木綿取り付けて 斎甕を 齋ひ掘り 据え 鹿じもの 膝折り伏して たわやめの おすい取りかけ かくだにも 我は祈ひなむ 君に逢はじかも(抜粋)	否f	0:05	(D021)
				口語訳		ひさかたの 天の原から 命を受け継いだ祖先の神よ 山奥の榊の枝に白く清らかな印を付けて 神聖な甕を据え 鹿のように膝を折って伏し 神に仕える私は 神聖な衣を着けてこんなにもお祈りしています 先祖の神よ あなたにお逢いできないのでしょうか				
6	1	494	2012/3/19	日めくり万葉集	長田王または百歌 (巻1・99)	476	うらさぶる 心さまねし ひさかたの 天のしぐれの 流れあふ見れば	否f	0:05	(D021)
				口語訳		うら淋しい思いが 胸にいっぱいだ(ひさかたの)天のしぐれが ながれるように降り乱れているのを見ると				
6	1	495	2012/3/20	日めくり万葉集	柿本人麻呂 (巻3・235)	477	大君は 神にしませば 天雲の 雷の上に 慮りせるかも	否f	0:05	(D021)
				口語訳		天皇は 神でいらっしゃるので 天雲の 雷の上に 庵を結んでおられることだ				
6	1	496	2012/3/21	日めくり万葉集	大伴旅人 (巻5・793)	478	世間は 空しきものと 知る時し いよよますます 悲しかりけり	否f	0:05	(D021)
				口語訳		世の中は空しいものだと思ひ知った時こそ いよいよますます悲しく思われることだ				
6	1	497	2012/3/22	日めくり万葉集	大伴部麻与佐 下総国防人 (巻20・4392)	479	天地のいづれの神を祈らばか 愛し母にまた言問はむ	否f	0:05	(D021)
				口語訳		天と地の間 のどの神さまを祈ったら いとしい母さまに いま一度 お話しできるだろうか				
6	1	498	2012/3/23	日めくり万葉集	大伯皇女 (巻2・166)	480	磯の上に 生ふるあしびを 手折らめど 見すべき君が ありといはなくに	否f	0:05	(D021)
				口語訳		岩の上に生えている馬酔木(あしび)を 折りころうと思うけど お見せしたいあなたが生きているとは 誰もいわないのに				